

平成24年度

静岡市ものづくり産業振興基本計画
に関する実施状況の報告について

経済局商工部 地域産業課

*** 目 次 ***

静岡市ものづくり産業振興基本計画の実施状況等について	1
1 経緯	1
2 基本計画の概要	1
3 実施状況等	2
(1) 方針毎の実施状況	3
①方針1 次代を担う有能な人材の確保と技術等の向上	3
②方針2 事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援	4
③方針3 連携を活かした新たな取組みの推進	5
④方針4 ものづくり産業を育てる環境整備	6
⑤方針5 ものづくり産業への理解促進と情報発信	7
(2) 実施状況の総括	8
4 静岡市ものづくり産業振興審議会の協力による事業の進捗管理	10
5 各種事業の成果目標及び事業実績一覧表	12
6 各事業の進捗管理票	16

静岡市ものづくり産業振興基本計画の実施状況等について

静岡市ものづくり産業振興基本計画（以下「基本計画」という。）の実施状況については、静岡市ものづくり産業振興条例（以下「条例」という。）第8条第7項の規定に基づき、次に掲げる事項により報告いたします。

1 経 緯

基本計画については、平成23年3月、本市のものづくり産業の振興に向けた議員提案をもとに制定された条例を根拠とする中、同条第18条に規定する静岡市ものづくり産業振興審議会（以下「審議会」という。）及び関係機関との連携を図りながら、計画の策定に向けて取り組んできました。具体的には、平成23年9月に審議会へ基本計画策定案の検討を諮問し、その後、パブリックコメントなどを経て、平成24年7月に「多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡」を計画目標とする基本計画を市長定例記者会見において、公表し、併せて施行し、計画目標の達成に向けて取り組んでいるところであります。

2 基本計画の概要

基本計画については、条例に掲げる趣旨の具現化に向けたプロセスであることから、計画目標を支える5つの方針と11の施策に基づいて、全49事業を振り分けるとともに、計画期間における成果目標の設定を含めて体系化を図ったもので、製造業を中心とする本市ものづくり産業の振興に関する取り組みの基盤となるものであります。

根 拠 法 令	静岡市ものづくり産業振興条例第8条第1項（基本計画の策定等）
計 画 期 間	平成24～26年度（3か年度）
策 定 目 的	本市ものづくり産業の総合的かつ計画的な振興を図るため
計 画 構 成 等	①計画目標 多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡 ②方 針 方針1 … 次代を担う有能な人材の確保と技術等の向上 方針2 … 事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援 方針3 … 連携を活かした新たな取組みの推進 方針4 … ものづくり産業を育てる環境整備 方針5 … ものづくり産業への理解促進と情報発信 ③施策事業等 各事業の成果目標及び事業実績一覧表のとおり

基本計画の実施主体については、計画目標の達成に向けたものづくり産業の振興に資する事業を実施する担当課として、経済局商工部の4課及び教育委員会事務局教育部の1課による計5課

が基本計画の推進に取り組んでいます。

事業担当課では、事業が振り分けられた方針や施策を踏まえるとともに、計画目標を達成するための成果目標のもとで、効率的かつ効果的な事業運営に努め、同時に進捗管理も図りながら事業を推進してきたところであります。

経済局商工部（4課）	地域産業課、産業政策課、商業労政課、観光・シティプロモーション課
教育委員会事務局教育部（1課）	学校教育課

3 実施状況等

基本計画については、前項のとおり、計画目標の達成に向けて体系的が図られたものであるため、その実施状況にあたっては、一事業の進捗状況だけの注視に止まるのではなく、計画目標を実現させるために掲げた方針の進捗状況を中心に捉えることで、計画全般を総合的に把握する必要があります。そのため、今回の報告では、図1のとおり、計画目標の大項目である5つの方針を基本的な枠組みと捉え、その中に位置付けられた施策毎の事業の進捗状況をもとに、方針毎の状況を把握しています。その後、それぞれの方針に関する進捗状況を総じて判断した結果をもとに、基本計画の実施状況を包括的に評価しています。

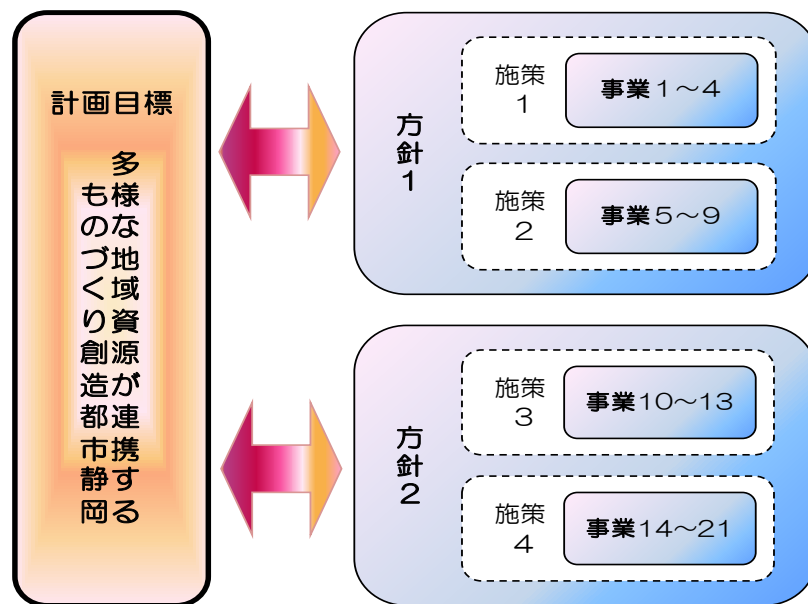


図1 基本計画の体系（方針1及び方針2抜粋）

このようなことから、次項以下では、各方針の進捗状況を把握するために、表1のとおり、各種事業の実施結果を次の表の区分等によって、AからCまでの3段階のほか、数値目標を設けて

いない事業に振り分け、5つの方針における進捗状況を判断しています。

なお、事業の成果目標に関しては、単年度毎のものと計画期間の3年をベースとするものに大別されるため、今年度の報告にあつては、次表の留意事項のとおり、後者における事業の成果目標を平準化して区分しています。

事業区分等	成果目標に対する事業の進捗状況等
A	成果目標を上回った事業
B	成果目標をほぼ達成した事業
C	成果目標を下回った事業
※	数値目標を設けていない事業
(留意事項)	1) 成果目標の年度毎の捉え方 計画期間の3年間を成果目標として設定している事業については、目標数値を3分の1として平準化を図り、それを今年度の成果目標として、上記のAからCの区分に適用させて実施状況を判断しています。 2) 施策の付記 参考まで当該方針を構成する施策を同表の冒頭に記載してあります。

表1 成果目標に対する各種事業の進捗状況等

(1) 方針毎の実施状況

①方針1 次代を担う有能な人材の確保と技術等の向上

方針1では、表2のとおり、成果目標を下回ったものが2事業あるものの、他の5事業においては、成果目標以上の進捗状況にあるため、方針の進捗状況に関して、比較的順調な事業展開のもとで推移しているものと捉えられます。

その他、事業4の理工系大学の誘致及び市内の既存大学における工学部新設の検討事業においては、市内外の工学系学部を有する大学との意見交換が進めることができました。また、事業9の技能検定の受験及び技能五輪への参加等に向けた支援の検討事業では、他政令市における関連支援の取り組みに関して、アンケート形式及び電話による実態調査を実施し、次年度における事業展開の事前準備に資したところであります。

特に、事業2の(仮)経営者と大学生との縁結び事業では、3年間の参加者数を360人と見込む中、今年度だけで140人の参加者を数えたことから、進捗率38.9%を達成しています。また、事業6の若手後継者の技術習得支援事業では、今年度に40人の受講希望者を受け入れることができたため、想定を超える133.3%の進捗率を達成しています。

さらに、事業7の伝統工芸技術秀士の指定及び顕彰の推進・PR活動の促進事業では、3年間で2人を指定する成果目標のもとで、今年度に1人を指定するとともに、首都圏及び市内でのPR活動に取り組んだ結果、顕彰者指定が50%、展示会等が46.7%という進捗率に達しています。

構成施策	施策1 地域における人材確保への支援 施策2 技術者、経営者等の能力向上への支援
A	事業2 (仮)経営者と大学生の縁結び事業 事業5 人材育成に係る各種講座・セミナー等の開催 事業6 若手後継者の技術習得支援(伝統工芸技術保存講習会) 事業7 伝統工芸技術秀士の指定及び顕彰の推進及びPR活動の促進
B	事業8 クラフトマンサポート事業の拡充
C	事業1 企業と大学等との就職に関する情報交換の促進 (未達成理由) 一般企業及び県が類似事業を実施したため (改善方法) PR及び対象企業の拡大 事業3 定年延長を見越した中高年技術研修の検討 (未達成理由) 他政令市の実態調査に終始したため (改善方法) 市内事業所のニーズ把握及び関係団体との情報交換・調整
※	事業4 理工系大学の誘致及び市内の既存大学における工学部新設の検討 事業9 技能検定の受験及び技能五輪への参加等に向けた支援の検討

表2 事業実績に基づく方針1の進捗状況区分

②方針2 事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援

方針2については、表3のとおり、成果目標を下回ったものが2事業ある一方で、それ以外の事業では、成果目標以上の進捗状況にあるため、方針の進捗状況に関して、比較的順調な事業展開のもとで推移しているものと捉えられます。

その中でも、事業10の若手グループの商品開発支援事業では、年1回の開催のところを、技術講習会として2回開催したほか、他の講習会等を5回の開催目標から9回に増やして取り組んだことで、180%の進捗率を達成しています。また、事業15の専門家による窓口相談においては、3年間で900件の相談目標件数に対して、475件の相談対応実績を挙げられたことから、52.8%の進捗率に達しています。さらに、事業18の起業に向けたビジネスプラン策定等の支援事業については、年間の応募目標件数80件に対して、112件の応募件数であったことから、事業対象者のニーズに応える中で進捗率140%を達成しています。

加えて、事業19の創業者等の営業機会拡大等のための各種事業の実施については、3年間で1,200件の成果目標を想定したところ、今年度だけで1,602件の相談件数実績を上げることができたため、事業展開が好調に推移しています。

一方、成果目標を下回った一部の事業では、事業の周知が十分に行き届いていないことに原因が確認されるため、次年度以降の事業展開にあたっては、周知の方法や対象等に検討を加え、利用事業者を増加させていく具体的な手立てを検討していく必要があります。

このような進捗状況にある方針2については、一部に改善を必要とする事業が見られるものの、多くの事業において、成果目標以上の順調な進捗が確認されることから、事業者のニーズへの支援に関する方針のもとで、事業の進捗が図られている状況にあります。

構成施策	施策3 情報戦略、製品開発、販路開拓等への支援 施策4 経営資源確保のための環境整備
A	事業10 若手グループの商品開発支援 事業12 全国規模等の見本市への出展助成強化 事業13 中小企業の新規市場開拓・新分野進出への支援 事業14 マーケティング支援講座の実施 事業15 専門家による窓口相談 事業18 起業に向けたビジネスプランの策定等の支援 事業19 創業者等の営業機会拡大等のための各種事業の実施
B	事業11 地場産品及び伝統工芸品等の販路開拓推進 事業17 専門家の指導による商品企画・開発支援 事業21 大学等研究機関への相談機会の拡充
C	事業16 コンサルティングの実施 (未達成理由) 周知方法が限定的であったため (改善方法) ホームページ以外にも周知方法を拡充 事業20 専門家の指導等による商品企画・開発等支援の拡充(新商品・特許) (未達成理由) 周知不足のため (改善方法) PR用チラシの配布強化

表3 事業実績に基づく方針2の進捗状況区分

③方針3 連携を活かした新たな取組みの推進

方針3については、表4のとおり、他の方針と比較して、数値目標が設けられていない事業が多い傾向にある中、他の事業においては、成果目標以上の実績を有する事業が多く、成果目標を下回った事業が確認されない状況にあります。

まず、成果目標以上の実績を達成したもののうち、特に顕著な進捗が見られる事業としては、事業24と事業28が挙げられます。事業24のメーカーとクリエイターのマッチング・ブランド化の支援事業については、3年間で3件の新商品開発数とする目標に対して、今年度だけで6件の実績を上げています。また、事業28の駿河湾地域循環型社会の推進と新事業の創出プロジェクトの推進事業では、事業化件数を3年間で3件とした目標に対して、2件の事業化に成功しており、新事業の創出に向けた支援を展開しています。

一方、数値目標が設けられていない事業に関しては、事業の成果創出に向けて、異業種企業交流会や技術相談会のほか、セミナー等を開催するなど、関係機関等との調整を図りながら進捗が図られています。

これらの進捗状況を受けた方針3の進捗状況については、今後、更なる進展が望まれる事業が多く見受けられるものの、多くの事業において、成果目標以上の進捗が確認されることから、連携を活かした新たな取組みを推進させる方針のもとで、事業の進捗が図られている状況にあります。

なお、事業29のアーティストとのコラボレーション支援推進事業については、2か年度の

事業として取り組みを進めており、今年度がその初年度に該当するため、成果目標に掲げる開発点数の集計は来年度の取り扱いとなります。今年度の取り組みとしては、成果目標の達成に向けて、開発準備に関するデザイナーの公募等の業務を予定どおり実施したところであり、

構成施策	施策5 多様な分野との新たな連携や取り組みへの支援 施策6 研究開発や事業化等に関する支援
A	事業24 メーカーとクリエイターのマッチング・ブランド化の支援 事業28 駿河湾地域循環型社会の推進と新事業の創出プロジェクトの推進
B	事業22 産学官交流事業の推進 事業29 アーティストとのコラボレーション支援推進 事業31 地域課題に係る産学共同研究への支援 事業35 ものづくり先進都市等に関する調査研究
C	—
※	事業23 異業種交流事業の推進 事業25 農商工連携の推進 事業26 フーズ・サイエンスヒルズプロジェクトの推進 事業27 地域結集型研究開発プロジェクトの推進 事業30 新産業開発振興機構の活用に関する検討 事業32 大学等研究成果の技術移転の推進 事業33 産業構造の将来予測等に関する調査研究の検討 事業34 地域間競争に臨む戦略的方策等の検討

表4 事業実績に基づく方針3の進捗状況区分

④方針4 ものづくり産業を育てる環境整備

方針4に掲げる事業は、表5のとおり、事業数そのものが少ない中、数値目標が設けられているものが1事業、その他2事業に数値目標が設定されていない状況にあります。

成果目標に掲げる事業36の企業立地の推進に関しては、新規企業立地の年間目標件数14件に対して、積極的な企業訪問に取り組むとともに、各種情報や助成制度の情報提供を実施したことから、19件の立地に成功し、進捗率135.7%を達成しています。

その他2事業の内、事業37の国、県、民間の産業支援機関や団体と連携した支援事業については、市産学交流センター及び清水産業・情報プラザのホームページ等の活用を図って、情報提供を実施したところであり、また、事業38の中小企業の事業継続計画策定に関する支援事業については、セミナーの開催及び専門家の派遣などに関して、他の関係機関との連絡調整を図り、BCP（事業継続計画）策定の普及啓発を行ったところであり、

このようなことから、方針4の進捗状況については、成果目標以上の事業が確認されたことに加え、情報提供や普及啓発にも取り組めたことから、ものづくり産業の環境整備に関する

る方針のもとで、事業の進捗が図られている状況にあります。

構成施策	施策7 企業の誘致及び市内留置の促進 施策8 情報の窓口の一元化に向けた事業者支援体制の整備 施策9 災害発生後における事業の継続等に向けた支援
A	事業36 企業立地の推進
B	—
C	—
※	事業37 国、県、民間の産業支援機関や団体と連携した支援 事業38 中小企業の事業継続計画策定に関する支援

表5 事業実績に基づく方針4の進捗状況区分

⑤方針5 ものづくり産業への理解促進と情報発信

方針5では、表6のとおり、成果目標を下回ったものが1事業ある一方で、それ以外の事業では、順調に事業展開が図られ、成果目標を達成した状況にあります。

その中でも、事業39の次世代育成プロジェクト事業については、小学校における民間講師活用件数が484件を数え、対成果目標121%を達成しています。また、市内中学校での職場体験学習では、全43校で実施され、成果目標に対して100%の進捗率となっています。

構成施策	施策10 ものづくり産業と教育機関の連携強化 施策11 ものづくり創造都市に関する情報発信と理解促進
A	事業39 次世代育成プロジェクト事業 事業41 高校生のインターンシップ事業 事業44 経済セミナー等の開催 事業47 静岡市ブランド認証制度の拡充 事業48 市民向けものづくり体験・学習イベントの開催
B	事業40 こどもクリエイティブタウンの整備 事業45 首都圏におけるプロモーションの強化（特産品東京展示会） 事業46 首都圏におけるプロモーションの強化（ホビーのまち）
C	事業49 ものづくり現場企業見学会の開催 （未達成理由）開催に向けた事前の準備に終始したため （改善方法等）協力事業者の抽出やPR方法などの検討
※	事業42 体験型観光プログラムの開発と誘客の推進 事業43 産業観光等のニューツーリズムの推進

表6 事業実績に基づく方針5の進捗状況区分

さらに、数値目標を設けていない事業の内、事業43の産業観光等のニューツーリズムの推進事業では、県中部地区観光協議会において、産業観光をテーマに観光メニューの開発に関し、検討を始めたところであります。

一方、成果目標を下回った事業においては、事業の実施に向けた企業や関係団体等との連絡調整に加え、開催に要する情報の収集などに終始したことが原因となっています。

これらのことに基づく方針5の進捗状況については、成果目標を下回った事業が部分的に見られるものの、成果目標以上の実績を有する事業が多く確認されるため、ものづくり産業への理解促進などの方針のもとで、事業の進捗が図られている状況にあります。

(2) 実施状況の総括

基本計画の実施状況に関しては、計画目標を支える重要な方針レベルにおいて、表7のとおり、5つの方針で概ね進捗が図られているとともに、事業レベルの進捗状況からも、成果目標以上の達成を示すA(19事業)及びB(11事業)に該当するものが、全49事業の61.2%を占める結果となっています。

方針区分	事業区分等	該当事業数	方針別(%)	4区分(注1)	方針別進捗評価	事業区分別	該当事業数	事業別(%)	3区分(注2)
方針1	A	4	44.4	55.5	○	A	19	38.8	61.2
	B	1	11.1						
	C	2	22.2						
	※	2	22.2						
	小計	(9)							
方針2	A	7	58.3	83.3	○	B	11	22.4	
	B	3	25.0						
	C	2	16.7						
	小計	(12)							
方針3	A	2	14.3	42.9	○	C	5	10.2	10.2
	B	4	28.6						
	※	8	57.1						
	小計	(14)							
方針4	A	1	33.3	33.3	○				
	※	2	66.6						
	小計	(3)							
方針5	A	5	45.5	72.7	○	※	14	28.6	28.6
	B	3	27.2						
	C	1	9.1						
	※	2	18.2						
	小計	(11)							
事業数計		49	—		—	—	49	—	—
各方針の進捗状況に対する総合的な評価		◎：十分に進捗が図られている ○：概ね進捗が図られている △：進捗が図られていない ×：全く進捗が図られていない							

注1) 各方針の事業に関して、成果目標以上とその他により事業を区分しています。

注2) 3区分による表記は、全49事業を成果目標以上とその他によりを区分しています。

注3) 方針別の割合について、必ずしも100%にならない項目もあります。

表7 方針別の進捗評価及び事業区分別の進捗状況

さらに、全49事業の内、成果目標を掲げている35事業に対するA及びBの合計割合（30事業）は、85.7%になるとともに、成果目標を設けていない事業においても、各種セミナーの開催などを通じて、中小事業者等に対する情報提供などの支援展開が進められています。

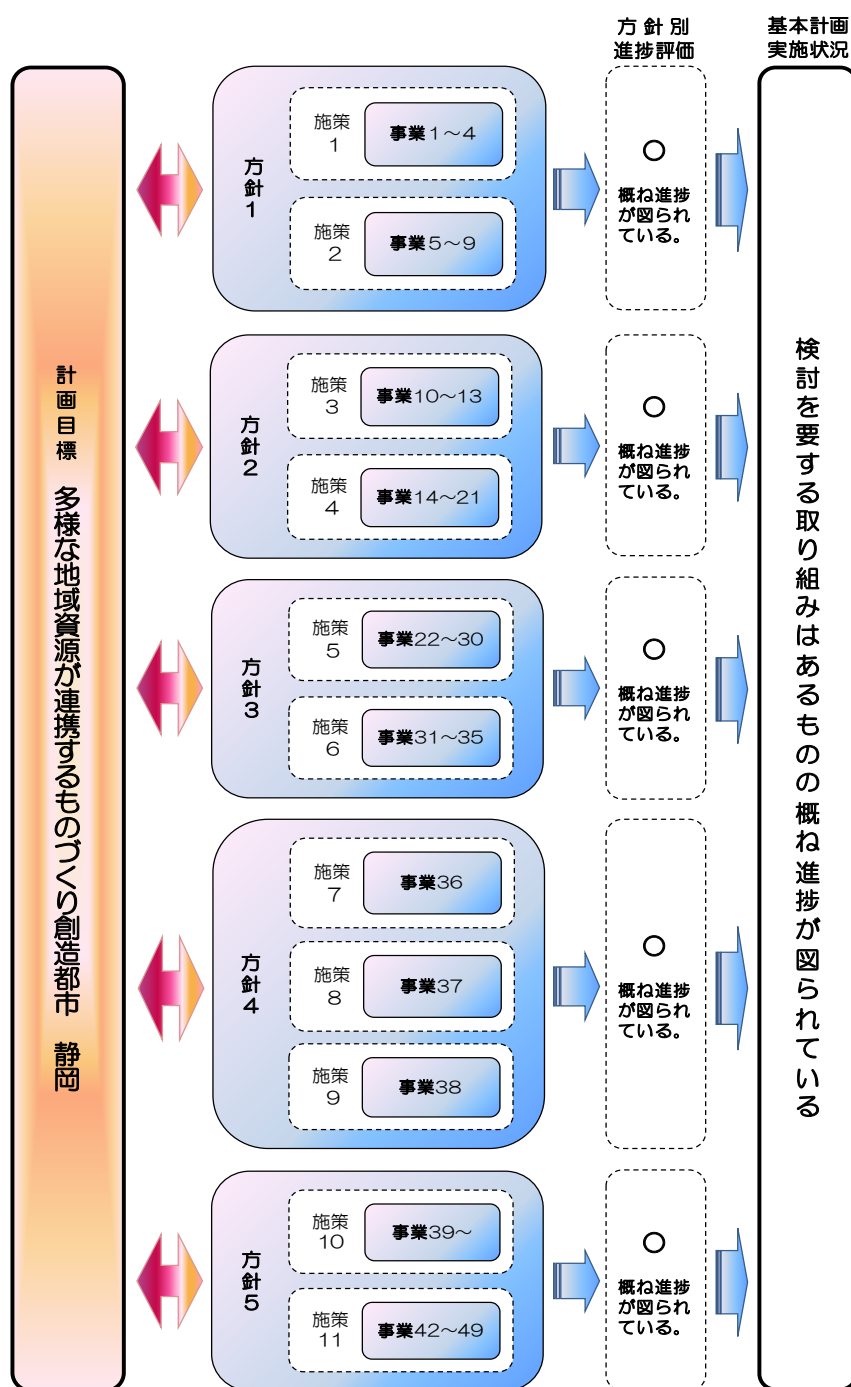


図2 基本計画の方針別進捗評価に基づく実施状況

これまでのことを踏まえ、包括的に基本計画の実施状況を考察する中では、表7に掲げる

結果から、部分的に課題を抱えている事業が見受けられるものの、方針1から方針5までの進捗が概ね図られている状況が捉えられます。このことから、基本計画全般にあっては、図2のとおり、計画目標の「多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡」に向けて、各種の事業成果を創出しながら、順調かつ着実に実施されている状況にあります。

4 審議会の協力による事業の進捗管理

基本計画の実施については、各種事業を具体的に進捗させる必要性から、基本計画策定案の検討に従事した審議会に対して、協力依頼を行った経緯があります。これは、試行的な取り組みの域は出ないものの、表8に示すとおり、地域産業課が担当する22事業を6分野の部会に区分して、それぞれの部会に審議会委員と担当職員を配置する中で、PDCAサイクルを基本としながら、事業の実施状況や改善策等を協議検討したところであります。

試行的な部会運営による事業の進捗管理については、初めての取り組みであったため、審議会委員及び担当職員間での意思疎通や役割分担などに課題が見受けられたものの、事業の充実や高質化に向けたご意見等が多数出されました。特に、周知不足から認知度が低い事業に対しては、情報提供先の拡大や他事業等との連携強化などを指摘いただき、担当課のみでは進捗が図れなかった部分を幅広く補足する取り組みを進めてきたところであります。今後は、このようなご意見等を事業展開に適宜反映させ、中小企業者等のニーズに応える支援事業を積極的に取り組んでいきます。

No.	部会名	検討対象事業
1	調査研究	事業4 理工系大学の誘致及び市内の既存大学における工学部新設の検討
		事業33 産業構造の将来予測等に関する調査研究の検討
		事業34 地域間競争に臨む戦略的方策等の検討
		事業35 ものづくり先進都市等に関する調査研究
		事業38 中小企業の事業継続計画策定に関する支援（産業政策課連携事業）
2	技術者養成	事業3 定年延長を見越した中高年技術研修の検討
		事業6 若手後継者の技術習得支援（伝統工芸技術保存講習会）
		事業9 技能検定の受験及び技能五輪への参加等に向けた支援の検討
3	販路開拓	事業11 地場産品及び伝統工芸品等の販路開拓推進
		事業45 首都圏におけるプロモーションの強化（特産品東京展示会）
		事業46 首都圏におけるプロモーションの強化（ホビーのまち）
4	商品開発	事業12 全国規模等の見本市への出展助成強化
		事業20 専門家の指導等による商品企画・開発等支援の拡充（新商品・特許）
		事業21 大学等研究機関への相談機会の拡充（産業政策課連携事業）
5	伝統工芸創造	事業8 クラフトマンサポート事業の拡充
		事業10 若手グループの商品開発支援（ものづくり相談・支援）
		事業29 アーティストとのコラボレーション支援推進
		事業30 新産業開発振興機構の活用に関する検討
		事業47 静岡市ブランド認証制度の拡充
6	PR促進	事業7 伝統工芸技術秀士の指定及び顕彰の推進・PR活動の促進
		事業48 市民向けものづくり体験・学習イベントの開催
		事業49 ものづくり現場企業見学会の開催

注1) 1部会では、審議会委員3人程度及び担当職員を数人配置し、進捗管理を検討いただいた。

注2) 審議会委員には、複数の部会に所属する中で、事業間の協力等についても検討いただいた。

表8 試行的な部会運営による地域産業課担当22事業の割り振り

(報告書添付資料)

■各事業の成果目標及び

事業実績一覧表 (P12~15)

■各事業進捗管理票 (P16~64)

各事業の成果目標及び事業実績一覧表

目標、方針、施策、事業	各事業の成果目標	平成24年度進捗状況	事業区分
(計画目標) 多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡			
(方針1) 次代を担う有能な人材の確保と技術等の向上			
(施策1) 地域における人材確保への支援			
(事業1) 企業と大学等との就職に関する情報交換の促進	参加者 大学等 180校/3年 企業等 240社/3年	参加者 大学等 42校/3年 (23.3%) 企業等 53社/3年 (22.1%)	C
(事業2) (仮) 経営者と大学生との縁結び事業の推進	参加者 360人/3年	参加者 140人/3年 (38.9%)	A
◆(事業3) 定年延長を見越した中高年技術研修の検討	参加者 30人/3年	参加者 0人/3年 ※他政令市での取り組み等に関する情報収集を実施。	C
◆(事業4) 理工系大学の誘致及び市内の既存大学における工学部新設の検討	3年間検討し、関係機関等との協議を含めた報告書を作成	本市及び周辺の大学との意見交換等を通じて、今後の関係構築に向けた取り組みを実施。	※
(施策2) 技術者、経営者等の能力向上への支援			
(事業5) 人材育成に係る各種講座・セミナー等の開催	開催回数 60回/3年 受講者数 4,500人/3年	開催回数 37回/3年 (61.7%) 受講者数 1,658人/3年 (36.8%)	A
(事業6) 若手後継者の技術習得支援 (伝統工芸技術保存講習会の開催)	受講生30人以上/年 (漆器、蒔絵、木工、竹工芸、拭漆の5部門に関する講座)	受講者数 40人/年 (133.3%)	A
◆(事業7) 伝統工芸技術士への指定及び顕彰の推進・PR活動の促進	平成26年度までに2名指定 (現在48人) 展示会等 15回/3年	顕彰者数 1人/3年 (50.0%) 展示会等 7回/3年 (46.7%)	A
◆(事業8) クラフトマンサポート事業の拡充	短期支援6人、長期支援9人、 独立支援3人(各人数は延べ) ※長期支援は期間拡充	短期支援 3人/3年 (50.0%) 長期支援 2人/3年 (22.2%) 独立支援 1人/3年 (33.3%)	B
◆(事業9) 技能検定の受験及び技能五輪への参加等に向けた支援の検討	補助金等交付要綱などの支援 制度の整備	他政令市の取り組み等に関する情報収集を実施。	※
(方針2) 事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援			
(施策3) 情報戦略、製品開発、販路開拓等への支援			
(事業10) 若手グループの商品開発支援 (ものづくり相談・支援)	技術講習会 1回/年 講演会等 5回/年 (新商品開発事業の推進等)	技術講習会 2回/年 (200.0%) 講習会等 9回/年 (180.0%)	A
(事業11) 地場産品及び伝統工芸品等の販路開拓推進	各種展示販売イベント 50回/年(駿府楽市や駿府匠宿のギャラリー等)	開催回数 50回/年 (100.0%)	B
◆(事業12) 全国規模等の見本市への出展助成強化	助成件数140件/3年 (1社当たり、国内外 各1回の計2回/年に強化)	助成件数 52件/3年 (37.1%)	A
◆(事業13) 中小企業の新規市場開拓・新分野進出への支援(情報発信・ビジネスマッチングの機会提供)	支援事業への参加企業数 30社 新規顧客開拓件数 6件 新分野進出・業務転換企業数 3社	参加企業数 19社/3年 (63.3%) 開拓件数 3社/3年 (50.0%) 新分野進出・業務転換企業数 6社 (200.0%)	A

注) ◆印は基本計画の策定に伴い新たに取り組む事業を示しています。

目標、方針、施策、事業	各事業の成果目標	平成24年度進捗状況	事業区分
(目標) 多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡			
(方針2) 事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援			
(施策4) 経営資源確保のための環境整備			
(事業14) マーケティング支援講座の実施	開催回数 36回/3年 受講者数 2,100人/3年 (再掲 事業5内数)	開催回数 12回/3年 (33.3%) 受講者数 877人/3年 (41.8%)	A
(事業15) 専門家による窓口相談	相談件数 900件/3年	相談件数 475件/3年 (52.8%)	A
(事業16) コンサルティングの実施	派遣回数 660件/3年	派遣回数 112件/3年 (17.0%)	C
(事業17) 専門家の指導による商品企画・開発支援	支援プロジェクト数 3件/3年	支援プロジェクト数 1件/3年 (33.3%)	B
(事業18) 起業に向けたビジネスプラン策定等の支援	応募件数 80件/年	応募件数 112件/年 (140.0%)	A
(事業19) 創業者等の営業機会拡大等のための各種事業の実施	相談件数 1,200件/3年	相談件数 1,602件/3年 (133.5%)	A
◆(事業20) 専門家の指導等による商品企画・開発支援拡充(新商品・特許)	新商品助成 12件/3年 産業財産権 66件/3年 (対象範囲を拡充)	新商品助成 3件/3年 (25.0%) 産業財産権 20件/3年 (30.3%)	C
◆(事業21) 大学等研究機関への相談機会の拡充	相談機会 6回/3年	相談機会 2回/3年 (33.3%)	B
(方針3) 連携を活かした新たな取組みの推進			
(施策5) 多様な分野との新たな連携や取組みへの支援			
(事業22) 産学官交流事業の推進	交流会開催数 21回/3年 交流・連携に関する情報提供の実施	交流会開催数 7回/3年 (33.3%)	B
(事業23) 異業種交流事業の推進	異業種交流を推進する団体への助成	※講演会等の開催 開催数 9回 参加者数 307人	※
(事業24) メーカーとクリエイターのマッチング・ブランド化の支援	マッチングによる新商品 開発種数 3件/3年	新商品開発件数 6件/3年 (200.0%)	A
(事業25) 農商工連携の推進	農商工連携による商品開発への支援	※国の事業認定につながる事業体の掘り起こし 7者	※
(事業26) フーズ・サイエンスヒルズプロジェクトの推進	プロジェクトの推進	※セミナー実施 3回 技術相談会及び マーケティング相談会 3回	※

注) ◆印は基本計画の策定に伴い新たに取り組む事業を示しています。

目標、方針、施策、事業	各事業の成果目標	平成24年度進捗状況	事業区分
(目標) 多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡			
(方針3) 連携を活かした新たな取組みの推進			
(施策5) 多様な分野との新たな連携や取組みへの支援			
(事業27) 地域結集型研究開発プログラムの推進	プログラムの推進	※セミナー実施 1回 研究開発継続実施中 (平成25年12月まで)	※
(事業28) 駿河湾地域循環型社会の推進と新事業の創出プロジェクトの推進	事業化件数 3件/3年	事業化件数 2件/3年 (66.7%)	A
(事業29) アーティストとのコラボレーション支援推進(ニューウェーブしずおか創造事業)	開発点数 平成24~25年度 20点 (平成26~27年度 20点)	2か年度事業のため、初年度に当たる今年度では、デザイナーの公募等を実施。	B
◆(事業30) 新産業開発振興機構の活用に関する検討	新産業開発振興機構の活用の推進	当該機構の活用促進に向けて、関係機関との意見交換などを実施。	※
(施策6) 研究開発や事業化等に関する支援			
(事業31) 地域課題に係る産学共同研究への支援	産学共同研究数 15件/3年	産学共同研究数 5件/3年 (33.3%)	B
(事業32) 大学等研究成果の技術移転の推進	技術移転機関への助成	※展示会出展 5回 マッチング会 5回 技術移転 3件 技術相談・仲介対応 12件	※
◆(事業33) 産業構造の将来予測等に関する調査研究の検討	3年間検討し、調査研究結果を報告書として作成	現在、ものづくり審議会委員及び県内大学教員とともに、調査研究を実施中。	※
◆(事業34) 地域間競争に臨む戦略的方策等の検討	3年間検討し、調査研究結果を報告書として作成	現在、ものづくり審議会委員及び県内大学教員とともに、調査研究を実施中。	※
◆(事業35) ものづくり先進都市等に関する調査研究	3都市/3年 (調査研究報告書の作成)	1都市/3年 (33.3%) (H24 北九州市の調査実施)	B
(方針4) ものづくり産業を育てる環境整備			
(施策7) 企業の誘致及び市内留置の促進			
(事業36) 企業立地の推進	新規企業立地件数 14件/年 (企業立地戦略指針) 平成20~24年度 70件/5年	新規企業立地件数 19件 (135.7%)	A
(施策8) 情報と窓口の一元化に向けた事業者支援体制の整備			
(事業37) 国、県、民間の産業支援機関や団体と連携した支援	市産業支援施設ホームページ等における情報提供の推進	産学交流センター及び清水産業・情報プラザのホームページ等の活用を図り、情報提供を実施。	※
(施策9) 災害発生後における事業の継続等に向けた支援			
◆(事業38) 中小企業の事業継続計画策定に関する支援	情報提供、講座等の実施	※セミナー開催 1回 受講者数 70人	※

注) ◆印は基本計画の策定に伴い新たに取り組む事業を示しています。

目標、方針、施策、事業	各事業の成果目標	平成24年度進捗状況	事業区分
(目標) 多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡			
(方針5) ものづくり産業への理解促進と情報発信			
(施策10) ものづくり産業と教育機関の連携強化			
(事業39) 次世代育成プロジェクト事業	①スペシャリスト派遣事業60件以上 ②民間講師活用400人以上 (2,100人以上) ③連続3日間以上の職場体験学習の 全校実施 ④職場体験学習受入事業所リスト 掲載事業所数150事業所(新規登 録3事業所以上)	① 56件/年 (93.3%) ② 484件/年 (121.0%) ③ 43校/年 (100.0%) ④ 144事業所/年 (96.0%) (新規登録12事業所)	A
(事業40) こどもクリエイティブタウンの整備	平成25年1月開館 (指定管理者による運営)	100% (平成25年1月20日開館)	B
(事業41) 高校生のインターンシップ事業	参加者 90人/3年	参加者数 86人/3年 (95.6%)	A
(施策11) ものづくり創造都市に関する情報発信と理解促進			
(事業42) 体験型観光プログラムの開発と 誘客の推進	首都圏や海外からの教育旅行 の誘致推進	※訪日教育旅行誘致件数 7件 (87.5%) 体験プログラム実施数 2,679件 (69.9%・H22~24)	※
(事業43) 産業観光等のニューツーリズム の推進	関係団体等との連携強化による 体験プログラムの開発及び充実	※関係機関との連携強化を図るた め、意見交換や検討を実施。	※
(事業44) 経済セミナー等の開催	セミナー等開催数 9回/3年	セミナー等開催数 5回 (55.6%)	A
◆(事業45) 首都圏におけるプロモーション の強化(地場産品東京展示会)	6回/3年 地場産品のPR及び静岡市プラ ンドの創出・認知度の強化	2回/3年 (33.3%)	B
◆(事業46) 首都圏におけるプロモーション の強化(ホビーのまち)	PR事業の強化 3回/3年	1回/3年 (33.3%)	B
◆(事業47) 静岡市ブランド認証制度の拡充	平成24~25年度 20品認証 展示即売会 15回/3年に拡充	認証品数 10品/2年 (50.0%) 展示即売会数 5回/3年 (33.3%)	A
◆(事業48) 市民向けものづくり体験・学習 イベントの開催	参加者300人/3年	参加者数 134人(校)/3年 (44.7%)	A
◆(事業49) ものづくり現場企業見学会の開催	参加者300人/3年	参加者数 0人/3年 ※市内事業者等との意見交換など を実施。	C

注) ◆印は基本計画の策定に伴い新たに取り組む事業を示しています。

事業 1	方針等 区分	(方針1) 次代を担う有能な人材の確保と技術等の向上 (施策1) 地域における人材確保への支援		平成24年度				
	事業名	企業と大学等との就職に関する情報 交換の促進		予算額	298千円			
				決算額	136千円			
	事業概要	県内外の大学等(短大・専門学校を 含む)と市内の事業所が、採用情報 等について情報交換を行う場を設け 地域の産業の人材確保に向けた支援 を促進します。		取 組 状 況 (9/1現在)	<ul style="list-style-type: none"> ■日程 平成25年1月31日(木) ■会場 グランシップ ■対象 企業の人事担当者と県内外の大学・短大・専門学校の 就職指導者 ■その他の予定 <ul style="list-style-type: none"> 10月 公共職業安定所(静岡・清水)と商工会議所の担当者 打合せ 11月 企業、大学へ交流会参加依頼の通知(予定1,000件) 12月 参加企業、大学の確定、プロフィール作成依頼 1月 参加企業、大学へ資料送付 (予定企業数80社、大学数70校) 1月 交流会実施 2月 アンケート実施及び来年度に向けた検討 ■予算額 <ul style="list-style-type: none"> 講師謝金60,000円、茶菓代40,000千円、 郵便料80,000円、看板代・会場設営・撤去費62,000円、 会場借上料等56,000円 			
		補 足 事 項	大学3年生の就職活動のスタートが 12月となったことにより、静岡県で は11月、本市では1月に本交流会を 開催する。就職活動開始前後に開催 することで、ニーズの異なる企業、 大学等の参加が見込まれる。		進 捗 率	9月1日 現在	(参加大学等) 0校 (参加企業等) 0社	0 0 (%)
	成 果 目 標	参加者 大学等 180校/3年 企業等 240社/3年		3月31日 現在	(参加大学等) 42校 (参加企業等) 53社	23.3 22.1 (%)		
	総合計画 の 位置付け (分野別) IV産業 ・経済	政 策 方 針	5 すぐれた能力と意欲ある人材 の育成・支援		事 業 評 価	事業結果	<ul style="list-style-type: none"> ■目 的 学生と企業の「就職・雇用のミスマッチ」を解消するため 大学等の就職指導者と企業の人事担当者ととの情報交換・意 見交換を実施することにより、平成26年3月卒業の学生の 就職促進を図る。 ■日 時 平成25年1月31日(木)午後2時から午後4時まで ■会 場 グランシップ ■参加者 ①県内外の大学・短大・専門学校の就職指導者 42校50人 ②静岡市内に所在する企業の人事担当者 53社71人 ■内 容 大学等の就職指導者と企業の人事担当者のそれぞれのブー スを設け互いに訪問することによる情報交換と意見交換を 実施した。 	
		大 施 策	(2) 意欲ある人材の地域における 就業支援					
		中 施 策	①企業と人材のマッチング					
	産業振興 プランの 位置付け	基 本 方 向	4 チャレンジ精神に富む人材・ 企業の輩出、育成		次 年 度 に 向 け た 改 善 点 ・ 目 標 の 未 達 成 理 由 等	平成24年度は、大学等58校、企業75社が参加したが、 本年度は一般企業(10月)及び静岡県(11月)が同様の 交流会を実施したため参加数が減少した。 次年度以降は、アンケート結果を反映して、県内外大学等へ のPR、対象企業の範囲拡大などを図ることによって、目標 を達成していきたい。		
基 本 方 針		(4) 次代を担う人づくり						
基 本 施 策		②職業人としての意識・能力の涵養						
担 当 課 等	経済局商工部 商業労政課 雇用労働政策担当		そ の 他 (特 記 事 項)	公共職業安定所(ハローワーク静岡・清水)及び静岡商工会 議所と共催する事業である。				

事業 2	方針等 区分	(方針1) 次代を担う有能な人材の確保と技術等の向上 (施策1) 地域における人材確保への支援		平成24年度				
	事業名	(仮) 経営者と大学生の縁結び事業 の推進		予算額	615千円			
				決算額	609千円			
	事業概要	優秀な人材を確保するために、経営者等が大学3年生等に直接、地域の産業の魅力を伝える就職支援策を推進します。		取 組 状 況 現 況 (9/1現在)	【今後の予定】 1 対象 ①静岡市内の中小企業で、リクルート力向上のため、 地域産業の魅力を積極的に伝えることができる企業 ②大学3年生等 2 内容 ①静岡市の産業の歴史、成長性、取組などの紹介 ②企業が求める人材とは ③各企業からの情報発信 ④企業と学生の交流 3 実施期間 9月～2月 4 予算額 委託料615,000円			
		補 足 事 項	市内の中小企業経営者や人事担当者 と大学生等が情報交換する セミナーを年3回開催する。 ・参加企業 3社×3 ・参加学生 (定員) 40人×3		9月1日 現在	(参加者数)	0 (%)	
	進 捗 率		3月31日 現在	(参加者数) 140人	38.9 (%)			
	成果目標	参加者 360人/3年		事 業 評 価	■企業と学生の縁結び事業 □第1回(11月17日) テーマ:ユニークな経営者や凄い社員と話をしよう!! 参加者:企業4社、学生13人 □第2回(11月24日) テーマ:静岡の「観光」と「食」で人口を増やす!? 参加者:企業4社、学生24人 □第3回(12月8日) テーマ:ホビーのまち静岡のプラモデル企業大集合!! 参加者:企業8社、学生26人			
	総合計画 の 位置付け (分野別) IV産業 ・経済	政 策 方 針	5 すぐれた能力と意欲ある人材 の育成・支援		事 業 結 果	■中小企業人材マッチング支援事業 □第1回(1月26日) テーマ:働くって何? 参加者:企業9社、学生30人 □第2回(2月23日予定) テーマ:採用される人とそうでない人の違い!? 参加者:企業7社、学生27人 □第3回(3月2日予定) テーマ:中小企業の魅力はズバリこれだ!! 参加者:企業9社、学生20人		
		大 施 策	(2) 意欲ある人材の地域における 就業支援			次 年 度 に 向 け た 改 善 点 ・ 目 標 の 未 達 成 理 由 等	企業と学生の交流会のほか、学生を対象とした企業見学や職 場体験の機会を充実させ、職業意識の醸成を図っていく。	
		中 施 策	①企業と人材のマッチング					
産業振興 プランの 位置付け	基 本 方 向	4 チャレンジ精神に富む人材・ 企業の輩出、育成						
	基 本 方 針	(4) 次代を担う人づくり						
	基 本 施 策	②職業人としての意識・能力の涵養						
担当課等	経済局商工部 商業労政課 雇用労働政策担当		そ の 他 (特記事項)					

事業 3	方針等 区分	(方針1) 次代を担う有能な人材の確保と技術等の向上 (施策1) 地域における人材確保への支援		平成24年度			
	事業名	定年延長を見越した中高年技術研修 の検討		予算額	0千円		
				決算額	0千円		
	事業概要	セカンドライフの充実に向けて、中高年 技術者等のニーズに基づいた技術や技能の 向上に関する研修会開催を検討します。 (若年層の育成や中小企業の技術力向上等 を含む)		取 組 状 況 現 況 (9/1現在)	◆9月1日現在、特に進捗なし ◆今後の予定 中高年技術者等を主体とした研修会や意見交流会などを、 より効率的、効果的に展開するため、他都市等の情報を収 集し、課題や問題点を整理するなど、以下のとおり検討を 進める予定です。 ①他都市事例の情報収集 支援策一覧、平成24年度予算額、事業の効果、事業の課 題、今後の方針等 ②情報収集した他都市事例に見る課題の整理 ③静岡市の中小事業者に関する現状の整理 ④他都市の事例、静岡市の現状から最適施策の検討 ・さまざまな分野に及ぶ中小事業者が求める技術等の把握 (リサーチ方法等) ・研修機会等への参加者及び協力者の把握 (製造分野や年齢層を含めて) ⑤市内中小事業者の実態やニーズの把握に加え、静岡商工 会 議所製造業部会等の中小事業者関連団体との連携模索		
					補 足 事 項		進 捗 率
	3月31日 現在	(参加者数) 0人 0(%)					
	成果目標	参加者 30人/3年		事 業 結 果	◆ものづくり産業振興技術者養成施策に関する調査を実施した ○政令指定都市 19市、金沢市、東京都台東区ほか6市区 ○調査内容 ①当事業と同内容又は相当する事業の有無と事業名、 ②事業に係るホームページURL ③事業内容 ④平成24年度予算額 ⑤事業成果 ⑥事業の課題 ⑦教育機関との連携状況 ⑧今後の方針 ○同内容の事業、又は相当する事業を実施していた都市1市 ◆商工会議所や関係団体等から異業種交流に係る施策について 情報収集を行った。(2~3月)		
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策 方針			事 業 評 価 等 (事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項		
		大 施 策					
		中 施 策					
産業振興 のプラン 位置付け	基本 方向		事 業 評 価 等 (事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項	◆セカンドライフという表現は、定年後、新たに技術を習得 し、再チャレンジするという感じがする。 現実には、定年延長時代を見据え、定年前に習得した技能を 基本としながらもプラス時代のニーズに即した技能の習得 伝承に向けての指導により長期的な仕事、雇用の場をつく ることがテーマである。			
	基本 方針						
	基本 施 策						
所属部会	■技術者養成部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 地場産業担当		事 業 評 価 等 (事務担当 記載項目) 改善点 ・ 目標の 未達成 理由等	◆中高年の技術力の活用について、重要性を認識しつつも、 多くの政令指定都市でも施策を実施していくことが難しい ことがうかがえた。静岡市で想定していた研修「中高年技 術者等を主体とした研修会や意見交流会の開催。 具体的には、市内事業所から参加を募り、異業種交流会を 設定。異業種交流会では、定期的な研修会・意見交流会の 開催、自社の製品、技術課題、経営課題等の発表及び意見 交換、工場見学などを実施する」に向けて、静岡市におけ る実態やニーズの把握を十分に行い、市内関係団体との情 報交換を行っていく。			
担当課等	経済局商工部 地域産業課 地場産業担当						

事業 4	方針等 区分	(方針1)次代を担う有能な人材の確保と技術等の向上 (施策1)地域における人材確保への支援		平成24年度		
	事業名	理工系大学の誘致及び市内の既存 大学における工学部新設の検討		予算額	0千円	
				決算額	0千円	
	事業概要	<p>市内外から優秀な人材を確保し、これらの人材の市内ものづくり産業への就業を促進させる観点から、市内に理工系大学を誘致することなどを検討する。</p> <p>理工系大学等は、新製品や加工技術の研究開発のほか、優れた人材を育成し、市内の中小製造事業所への人材供給機関として、その役割に大きな期待が寄せられる。併せて大学の教授陣と地元就業した卒業生との間における「人的ネットワーク」の形成からは、信頼関係のもとで、製品開発などに新たな事業展開の示唆を含めた支援・相談・共助機関としての役割にも期待が持てる。</p> <p>現在のところ、このような理工系大学等は静岡市になく、今後のものづくり産業（製造業）の振興を図る上では、極めて重要な視点であり、誘致等を検討する必要性から事業化された経緯がある。</p>		取 組 状 況	現 況 (9/1現在)	◆理工系大学の大学運営に関する聞き取り 本事業の検討を進めるにあたり、二波部会長からご紹介をいただいた県内工学系大学を訪問し、学長等から大学経営の将来構想に関する情報提供をいただいた。
						①日 時 9月3日(月)14:00~15:30
						②対 象 県内工学系大学
	進 捗 率			9月1日 現在	0	
				3月31日 現在	0	
	成果目標	3年間検討し、関係機関等との協議を含めた報告書を作成		事 業 結 果	<p>■関係機関の訪問 本事業の推進に向けて、9月以降、大学運営本部等を訪問し、ものづくり基本計画の策定や事業の趣旨等の説明に費やした。また、今年度は今後の事業展開を踏まえ、継続的かつ具体的な取り組みの模索を含めた関係構築の足掛かりを得るための準備期間とすることができた。</p> <p>■訪問先等 ・県内工学系大学 平成24年 9月 3日 学長訪問 " 11月15日 大学運営本部訪問 平成25年 1月23日 "</p> <p>・県内大学 平成24年12月25日 学長訪問 平成25年 1月16日 同大学産学連携機構訪問 " 1月22日 学長訪問</p>	
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策方針			事 業 評 価 等	<p>（事務担当 記載項目）</p> <p>所属部会 からの 意見及び 指摘事項</p>
大 施 策						
中 施 策						
産業振興 のプラン 位置付け	基本 方 向		<p>（事業担当 記載事項）</p> <p>改善点 ・ 目標の 未達成 理由等</p>	<p>■他事業との連携 本事業の進展にあたり、特に「事業21大学等研究機関への相談機会の拡充」を推進し、上記に掲げた大学の相談窓口へ具体的に働きかけを通じて、関係構築を促進させることを改善点とする。 来年度においては、理工系学部の誘致を念頭に置つつも、具体的な進捗を図る必要があることから、静岡商工会議所製造業部会、県内大学産学連携機構、そして、地域産業課の三者による事業の進展を試みる必要がある。</p>		
	基本 方 針					
	基本 施 策					
所属部会	<p>■調査研究部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 産業経営担当</p>					
事業 担当課等	<p>経済局商工部 地域産業課 産業経営担当</p>					

事業	方針等 区分	(方針1) 次代を担う有能な人材の確保と技術等の向上 (施策2) 技術者、経営者等の能力向上への支援		平成24年度		
	事業名	人材育成に係る各種講座、セミナー等の開催	予算額	産学交流センター指定管理料115,644千円及び清水産業・情報プラザ指定管理料83,491千円の一部		
			決算額	産学交流センター指定管理料115,644千円及び清水産業・情報プラザ指定管理料83,491千円の一部		
	事業概要	各産業支援施設において、中小企業の経営者・従業員の人材育成のため、大学や産業界で活躍する専門家の協力を得て、各種講座やセミナーを開催します。	取組状況 (9/1現在)	現況	(産学交流センター) ・大学等起業家育成事業：開催数1校(静岡県立農業高校) 開催数1回 受講者数30人(今年度7校予定) ・マーケティング支援講座 開催数6回 受講者数472人 ・マーケティング支援講座以外の講座 開催数2回 受講者数109人 (清水産業・情報プラザ) ・情報化講演会 開催数2回 受講者数57人 【今後の予定】 ・創業者を対象とした講演会 1回 ・創業支援講座 1回 ・情報化講演会 2回	
					補足事項	進捗率等
	3月31日現在	(開催回数)計37回 (受講者数)1,658人	61.7 36.8 (%)			
	成果目標	開催回数 60回/3年 受講者数 4,500人/3年		事業評価	事業結果	
	総合計画の位置付け (分野別) IV産業・経済	政策方針	IV産業・経済 1 都市型産業集積を目指した産業構造の知的高度化【再掲】 5 すぐれた能力と意欲ある人材の育成・支援		(産学交流センター) ・大学等起業家育成事業：開催数7校 (静岡県立農業高校、静岡市立商業高校、静岡県立科学技術高校、静岡デザイン専門学校、静岡福祉大学、静岡常葉学園大学、静岡県立大学) 開催数18回 受講者数(延べ)412人 ・マーケティング支援講座 開催数13回 受講者数987人 ・マーケティング支援講座以外の講座(開催数、受講者数は見込) 開催数2回 受講者数109人 (清水産業・情報プラザ) ・創業者を対象とした講演会 開催数1回 受講者数28人 ・創業支援講座 開催数1回 受講者数21人 ・情報化講演会 開催数4回 受講者数98人	
		大施	(2) 地域産業の活力強化【再掲】 (5) 地域を担う多様な人材の活用と育成			
		中施策	③経営基盤とマーケティング力の強化【再掲】 ①起業家精神の醸成と起業家の育成 ②経営者・経営幹部の意識改革による経営能力の向上			
産業振興プランの位置付け	基本方向		次年度に向けた改善点・目標の未達成理由等			
	基本方針					
	基本施策					
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		その他 (特記事項)			

事業 6	方針等 区分	(方針1)次代を担う有能な人材の確保と技術等の向上 (施策2)技術者、経営者等の能力向上への支援		平成24年度			
	事業名	若手後継者の技術習得支援 (伝統工芸技術保存講習会の開催)	予算額	1,809千円			
			決算額	1,730千円			
	事業概要	伝統工芸界の後継者育成と伝統工芸技術の保存伝承並びに技術訓練を図り、今後の商品開発に活用する目的で、漆器、蒔絵、拭漆、竹工芸、木工などの講習会を行います。	取組 状況 (9/1現在)	<p>■伝統工芸界の後継者育成と伝統工芸技術の保存伝承並びに技術訓練を図り、今後の商品開発に活用する目的で、漆器、蒔絵、拭漆、竹工芸、木工などの講習会を地元の若手後継者を対象に開催している。</p> <p>①漆器の部 事業名 伝統工芸技術保存講習会(漆器の部) 期 間 平成24年5月8日(火)～9月25日(火)までのうち20日間 受講生 蒔絵、漆器関連業界関係者8人(予定)</p> <p>②拭漆の部 事業名 伝統工芸技術保存講習会(拭漆の部) 期 間 平成24年9月24日(月)～11月5日(月)でのうち7日間(予定) 受講生 木工関連業界関係者6人(予定)</p> <p>③竹工芸細工の部 事業名 伝統工芸技術保存講習会(駿河竹工芸細工) 期 間 平成24年9月25日(火)～12月4日(火)までのうち11日間(予定) 受講生 竹業界後継者8人(予定)</p> <p>④木工指物の部 事業名 伝統工芸技術保存講習会(木工指物の部) 期 間 平成24年9月6日(木)～12月13日(木)までのうち15日間(予定) 受講生 木工家具関連業界関係者9人(予定)</p> <p>⑤蒔絵の部 事業名 伝統工芸技術保存講習会(蒔絵の部) 期 間 平成24年10月9日(火)～平成25年3月5日(火)までのうち20日間(予定) 受講生 蒔絵、漆器関連業界関係者9人(予定)</p>			
				補足事項	進捗率	9月1日現在	(受講者数) 8人 27 (%)
				3月31日現在	(受講者数) 40人 133.3 (%)		
	成果目標	受講生 30人以上/年 (漆器、蒔絵、木工、竹工芸、拭漆の5部門に関する講座)		事業 評 価 等	<p>■漆器、蒔絵、拭漆、竹工芸細工、木工指物などの各講習会を地元の若手後継者を対象に開催した。</p> <p>①漆器の部 事業名 伝統工芸技術保存講習会(漆器の部) 期 間 平成24年5月8日(火)～9月25日(火)までの内20日間 受講生 蒔絵、漆器関連業界関係者8人</p> <p>②拭漆の部 事業名 伝統工芸技術保存講習会(拭漆の部) 期 間 平成24年9月24日(月)～11月5日(月)での内7日間 受講生 木工関連業界関係者6人</p> <p>③竹工芸細工の部 事業名 伝統工芸技術保存講習会(駿河竹工芸細工) 期 間 平成24年9月25日(火)～12月7日(金)までの内11日間 受講生 竹業界後継者8人</p> <p>④木工指物の部 事業名 伝統工芸技術保存講習会(木工指物の部) 期 間 平成24年9月6日(木)～12月13日(木)までの内15日間 受講生 木工家具関連業界関係者9人</p> <p>⑤蒔絵の部 事業名 伝統工芸技術保存講習会(蒔絵の部) 期 間 平成24年10月9日(火)～平成25年3月12日(火)の内20日間 受講生 蒔絵、漆器関連業界関係者9人</p>		
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策方針	IV産業・経済 5 すぐれた能力と意欲ある人材の育成・支援		事業結果		
		大施策	(3)地域産業を支える知的経営資源の活用強化				
		中施策	①研究開発力の強化				
産業振興 のプラン 位置付け	基本方向	2 生活の質を高める産業の振興	<p>(事務担当 記載項目)</p> <p>所属部会からの意見及び指摘事項</p>	<p>◆講習会を開くだけでなく、講座で作品ができるのであれば、その作品の展示や販売など、学習成果の活用機会も同時に設定すれば受講者の励みになる。</p>			
	基本方針	(1)マーケットを重視した事業展開の促進					
	基本施策	④地域・伝統産業の近代化推進					
所属部会	<p>■技術者養成部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 地場産業担当</p>		<p>(事業担当 記載事項)</p> <p>改善点・ 目標の未達成理由等</p>	<p>■若手職人ネットワークの構築 伝統工芸技術保存のための後継者育成に加え、クラフトマンサポート制度で研修中の若手にも参加を呼びかけることで若手同志の中での技術指導やネットワーク構築に寄与できた。</p>			
事業 担当課等	<p>経済局商工部 地域産業課 地場産業担当</p>						

事業 7	方針等 区分	(方針1)次代を担う有能な人材の確保と技術等の向上 (施策2)技術者、経営者等の能力向上への支援		平成24年度			
	事業名	伝統工芸技術士の指定及び顕彰の 推進・PR活動の促進		予算額	1,087 千円		
				決算額	702 千円		
	事業概要	伝統工芸技術保存と後継者の育成を図るため、本市の伝統産業に長年従事する技術者の中から特に優秀な技術を有し、その伝承と産業の発展に対し功績が顕著である者の指定及び顕彰を推進します。併せてPR活動を促進します。		取 組 状 況 現 況 (9/1現在)	●伝統工芸技術士の指定者の検討 平成21年度より昨年度まで対象者不足により指定、顕彰を見送ってきたが、今年度は指定、顕彰を行うことで決定。対象者となる人材を検討し事前調査を行った。 ●PR活動の実施 伝統工芸技術士の作品展示等によるPR活動を行った(各区役所、駿府匠宿、駿府楽市等)		
				補 足 事 項	進 捗 率	9月1日 現在	(顕彰者) 0人 (展示会等) 3回
				3月31日 現在	(顕彰者) 1人 (展示会等) 7回	50.0 46.7 (%)	
	成果目標	平成26年度までに2名指定(現在48人) 展示会等 15回/3年		事 業 結 果	■伝統工芸技術士の顕彰 /伝統工芸技術士を1名(張下駄師 丸山宗孝氏)を顕彰。技術保存 伝承用映像を作成中。代表的作品を数点納品し顕彰式を実施予定 (3/12)		
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策 方針			■伝統工芸技術士のPR /首都圏でのPR(新宿駅西口での映像放映、台東区2k540での作品 展示及びパネル紹介等) /市内でのPR(各区役所フロアでの作品展示 計4回、駿府楽市での 常設展示、駿府匠宿での紹介映像通年上映)		
		大 施 策					
		中 施 策					
産業振興 の プラン 位置付け	基本 方向			事 業 評 価 等 (事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項	■伝統工芸技術士のPR事業の今後の展開 認知度向上・PRにかかる事業をどのように実施していくか、また開催する展示会を より効果的にするための展示方法やPR方法等の工夫をしていくことが重要である。		
	基本 方針						
	基本 施策						
所属部会	■PR促進部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 産業経営担当		(事業担当 記載事項)	◆匠宿での常設展示、市内各所での企画展示やイベントにおける実演のほか、首都 圏PR事業としての企画展示などを継続して実施していきます。今後、より一層、業界 の活性化に努めるよう、展示会・様々なPR方法について検討し、充実化を図ってま いります。			
事業 担当課等	経済局商工部 地域産業課 地場産業担当		改善点 ・ 目標の 未達成 理由等				

事業 8	方針等 区分	(方針1)次代を担う有能な人材の確保と技術等の向上 (施策2)技術者、経営者等の能力向上への支援		平成24年度		
	事業名	クラフトマンサポート事業の拡充		予算額	5,400千円	
				決算額	3,479千円	
	事業概要	伝統産業を担う人材の確保、後継者育成のため、新規就業促進のための短期現場実習、後継者育成を図る長期現場実習、ものづくりで生計を志す方への独立支援補助事業を拡充します。		取 組 状 況 (9/1現在)	(1) 地域産業現場実習短期支援者数 3名 (575千円)	
					(2) 地域産業現場実習長期支援者数 2名 (0千円) 報告期間(前期4/1~9/30 後期10/1~3/31)	
	補 足 事 項			進 捗 率	9月1日 現在	(短期支援) (長期支援) (独立支援) (%)
					3月31日 現在	(短期支援) 3人 (長期支援) 2人 (独立支援) 1人 50.0 22.2 (%) 33.3
	成果目標	短期支援6人/3年、長期支援9人/3年 独立支援3人/3年(各人数は延べ) ※長期支援は期間拡充		事 業 結 果	(1) 地域産業現場実習短期支援者数 3名 (575千円)	
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策 方針	IV産業・経済 5 すぐれた能力と意欲ある人材の 育成・支援		(2) 地域産業現場実習長期支援者数 2名 (2,400千円) 報告期間(前期4/1~9/30 後期10/1~3/31)	
		大 施 策	(1) 地域経済を担う多様な人材の活用 と育成		(3) 地域産業独立支援補助金交付者数 1名 (504千円) 報告期間(前期4/1~9/30 後期10/1~3/31)	
産業振興 のプラン 位置付け	中 施 策	④高度で専門的な知識・技能をもつ人材 の活用と育成	事 業 評 価 等 (事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項	■全般について ・サポート制度を受ける人物の選考の際に、「伝統工芸」の現状や今後、 問題などを説明し、それを理解し、その上で覚悟を持ってやっていけ る人物を選考するようにしていきたい ・10年間の実績によるその人たちの感想、意見から今後への改善点 を見つけているのか？ ■長期支援制度について ・現状では長期が2年ですが、正直なところこれでは十分な技術習得は 難しい。 ■独立支援制度について ・新しい工場を借りるのはかなり費用がかかるので、共通の機械、集塵、 装置等は皆で使えるような工場団地みたいなものを作るべきではない か		
	基本 方針	4 チャレンジ精神に富む人材・企業の 輩出、育成				
	基本 方針	(4) 次代を担う人づくり				
所 属 部 会	■伝統工芸創造部会 部会員 ものづくり審議会委員5人 ■事務担当 地場産業担当		事 業 担 当 (記載事項)	クラフトマンサポート事業を就職支援と考える希望者が多く制度の説明と業界の現状 や将来の展望などを、詳しく説明すると厳しい現状を理解する受講者は多い。その ため、実際にやろうとすると二の足を踏む人は多々である。		
	事 業 担 当 課 等	経済局商工部 地域産業課 地場産業担当		改善点 ・ 目標の 未達成 理由等		

事業 9	方針等 区分	(方針1)次代を担う有能な人材の確保と技術等の向上 (施策2)技術者、経営者等の能力向上への支援		平成24年度			
	事業名	技能検定の受験及び技能五輪への 参加等に向けた支援の検討		予算額	0千円		
				決算額	0千円		
	事業概要	本市のものづくり産業の力量形成に向けて、 確かな技術や技能は必須条件の一つである ため、技能検定の受験及び技能五輪大会へ の参加等を目指す技術者や事業所等に対し て、費用助成等の支援を検討する。		取 組 状 況 (9/1現在)	◆9月1日現在、特に進捗なし ◆今後の予定 技能検定の受験、技能五輪への参加に向けた支援をより効果的、効率的に行うた め、先進都市等の情報を収集し、課題や問題点を整理するなど、以下のとおり検討 を進める予定です。 ①先進都市事例の情報収集 「支援策一覧、平成24年度予算額、事業の効果、事業の課題、今後の方針」等 ②情報収集した先進事例から見える課題整理 ③静岡市ものづくり産業に関する現状の整理 (または、先進都市での施策導入に際しての問題点と対応策の確認など) ④先進都市の事例、静岡市の現状から最適施策の検討 ⑤市内中小事業者の実態やニーズの把握に加え、静岡商工会議所製造業部会等 の中小事業者関連団体との連携模索		
					補 足 事 項	進 捗 率	9月1日 現在
	3月31日 現在	(支援制度)検討準備	0				
	成果目標	補助金等交付要綱などの支援制度の 整備		事 業 結 果	◆ものづくり産業振興技術者養成施策に関する調査を実施した ○政令指定都市 19市、金沢市、東京都台東区ほか6市区 ○調査内容 ①当事業と同内容又は相当する事業の有無と事業名 ②事業に係るホームページURL、③事業内容、 ④平成24年度予算額、⑤事業成果、⑥事業の課題、 ⑦教育機関との連携状況、⑧今後の方針 ○同事業あるいはそれに相当する事業を実施していた都市 6市 ○同事業又はそれに相当する事業は、下記の4パターンがあった。 ①技能検定、技能五輪に係る個人への費用助成 ②技能検定、技能五輪に係る企業・団体への費用助成 ③技能検定、技能五輪に係る企業・団体へ講師派遣等支援 ④技能検定、技能五輪に係る研修実施 ○当事業及び相当する事業を実施している北九州市、名古屋市 金沢市などの事業概要を把握できたので、今後、必要に応じて 詳細事項を照会していく予定である。 ◆静岡技能協会での事業実施内容等の把握に努め、情報交換を実施していくこと としている。(2～3月)		
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策 方針			事 業 評 価 等 (事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項	◆支援といった場合に、費用助成を中心に考えられているようですが、お金を出した だけで効果が出るわけではない。	
		大 施 策				◆いろいろな技能の評価制度をまずは十分周知し、そういう評価を受けた方が良いと いう意識を多くの方に持ってもらえるような働きかけも大切である。	
		中 施 策		◆技能向上のための(技能試験対策の)研修会を、市として開くのも、支援の一つにな る。			
産業振興 のプラン 位置付け	基本 方向		事 業 評 価 等 (事業担当 記載事項) 改善点 ・ 目標の 未達成 理由等	◆補助の要件、申請方法、交付先などについて、詳細に検討するにあたり、静岡市 における実態やニーズの把握を十分に実施する必要がある。			
	基本 方針			◆教育機関や既存団体と情報共有、連携を強化する必要がある			
	基本 施策						
所属部会	■技術者養成部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 地場産業担当						
事業 担当課等	経済局商工部 地域産業課 地場産業担当						

事業 10	方針等 区分	(方針2)事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援 (施策3)情報戦略、製品開発、販路開拓等への支援		平成24年度			
	事業名	若手グループの商品開発支援 (ものづくり相談・支援)		予算額	1,140 千円		
				決算額	928 千円		
	事業概要	市内地場産業の活性化のために、デザイン、技術、経営等に関する各種講演会や指導会のほか、実技指導も含めた技術講習会の開催や、専門家による新商品開発指導など、ものづくりに対する相談を行います。		取 組 状 況 現 況 (9/1現在)	●技術講習会の開催 ／エアブラシ実技講習会の実施(2回、参加者延16名) ●講演会の開催 ／乾漆講演会(1回)		
		補 足 事 項	進 捗 率		9月1日 現在	(技術講習会開催数) 2回 200 (%) (講習会等開催数) 1回 20 (%)	
		3月31日 現在		(技術講習会開催数) 2回 200 (%) (講習会等開催数) 9回 180 (%)			
	成果目標	技術講習会 1回/年 講習会等 5回/年 (新商品開発事業の推進等)		事 業 結 果	■技術講習会の開催 ／エアブラシ実技講習会の実施(2回、参加者延16名) ■講演会の開催 ／乾漆講演会(1回、参加者14名) マーケティング講演会(1回、参加者43名) 椅子技術講演会(1回、参加者26名) ■商品開発研究会の開催 ／漆器商品開発研究会(計5回) ■専門家派遣の実施 ／乾漆商品開発指導(1回、参加者12名)		
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政 策 方 針					
		大 施 策					
		中 施 策					
産業振興 のプラン 位置付け	基 本 方 向	2 生活の質を高める産業の振興		事 業 評 価 等 (事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項	■業界把握について ／現在存続している若手グループは把握できているか ■事業内容について ／どうしても残さなければならない技術の把握を確認し その講習会、講演会を開催した方はよい ／講習会等で技術向上・商品開発については研究されているようですが、 販路開拓に関する講習会が行われていないようです		
	基 本 方 針	(1)マーケットを重視した事業展開 の促進					
	基 本 施 策	④地域・伝統産業の近代化推進					
所属部会	■伝統工芸創造部会 部会員 ものづくり審議会委員5人 ■事務担当 地場産業担当		事 業 担 当 (記載事項) 改善点 ・ 目標の 未達成 理由等	■専門家派遣による商品開発事業の実施 ／漆器の商品開発事業として専門家を継続的に派遣することで開発を 促進した ■マーケティング講演会の実施 ／技術、商品開発講習会・講演会に加えマーケティング講演会を開催 した			
事業 担当課等	経済局商工部 地域産業課 地場産業担当						

事業 11	方針等 区分	(方針2)事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援 (施策3)情報戦略、製品開発、販路開拓等への支援		平成24年度			
	事業名	地場産品及び伝統工芸品等の販路 開拓推進		予算額	24,849 千円		
				決算額	24,257 千円		
	事業概要	伝統工芸品のインターネット通販、駿府楽市 特産品展示コーナーの運営等により、地場産 品や伝統工芸品等の販路開拓を図ります。		取 組 状 況 (9/1 現在)	JR静岡駅構内アスティ静岡の「駿府楽市」静岡市特産品展示コーナーにおいて年 間27回の展示会を開催予定、内現在までに12展示会を実施した。 4/1~8/31までの来場者数 209,290人		
					補 足 事 項	進 捗 率	9月1日 現在
	3月31日 現在	(イベント開催回数)50回	100 (%)				
	成果目標	各種展示販売イベント 50回/年 (駿府楽市や駿府匠宿のギャラリー等)		事 業 結 果	<p>■特産品展示販売 JR静岡駅構内アスティ静岡の「駿府楽市」静岡市特産品展示コーナーに おいて、年間27回の展示会を開催実施した。 ※年間来場者数 529,120人(平成24年度)</p> <p>■伝統工芸品の海外販路開拓に関するセミナーの企画準備 ジェトロ静岡貿易情報センターとのコラボレーションにより、来年度の開催 に向けて、セミナーを企画立案中である。また、伝統工芸品に携わる方々 の意向を踏まえる意味からも、1月下旬にアンケート形式での通知文を関 係者に発送し、今年度末までに意向を取りまとめる予定である。 ※発送件数 漆器や蒔絵など計11団体(対象者数68人)</p>		
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策 方針			事 業 評 価 等 (事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項		
		大 施 策					
		中 施 策					
	産業振興 のプラン 位置付け	基本 方向	2 生活の質を高める産業の振興	事 業 評 価 等 (事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項			
基本 方針		(1)マーケットを重視した事業展開 の促進	<p>・「駿府楽市・駿府匠宿」は静岡市内唯一の伝統工芸品・地場産品の展示・販売の 場なので、お客様のニーズが何等かの形でフィードバックされれば、今後の販路開 拓につながると思われる。</p> <p>・駿府楽市の展示コーナーのイベント告知、PRをもっと積極的に行う必要がある。</p>				
基本 施策		③販路開拓支援					
所属部会	<p>■販路開拓部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 地場産業担当</p>		事 業 担 当 記 載 事 項 改善点 ・ 目標の 未達成 理由等	静岡の玄関口で静岡市の地場産品を宣伝PRするという事業の実施に関しては問題 がないが、ここ数年において静岡駅の乗降客の減少が売り上げに現れ苦戦を招いて いる。このことはJR静岡アスティ全体の問題で今のところどうすることもできない。			
事業 担当課等	経済局商工部 地域産業課 地場産業担当						

事業 12	方針等 区分	(方針2)事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援 (施策3)情報戦略、製品開発、販路開拓等への支援		平成24年度		
	事業名	全国規模等の見本市への出展助成強化		予算額	15,300 千円	
				決算額	12,134 千円	
	事業概要	市内中小企業製造業者が市内外で行われる全国規模または国際的な展示会・見本市等に出展する経費のうち小間料について、助成を拡大します。		取組 状況 (9/1現在)	現況 (9/1現在)	◆平成24年9月1日現在、補助金申請件数は30件(28件)で、相談中の企業は7件です。また、その執行額は7,951千円(7,757千円)となっております。 ※()内は平成23年9月1日の数値 昨年度は震災の影響で、展示会が開催されない等の理由により、申請が減少しましたが、今年度は少し回復傾向にあります。 また、今年度は新規申請企業が多く、当補助金の存在が周知されてきていると言えます。
	3月31日 現在	(大規模展示会助成件数)52件 (参考)対予算執行額	37.1 79.3 (%)			
	成果目標	助成件数 140件/3年 (1社当たり、国内外 各1回の計2回/年に強化)		事業 結果	事業 評価 等	◆申請件数：52件 執行額：12,134千円(平成25年3月31日現在) ◆当補助金を利用した52社の中で、新規に利用した企業は11社になります。また、問い合わせも多く、補助金の周知されてきていると考えております。申請件数は、震災の影響があった昨年に比べ増加しておりますが結果的に一昨年度並みとなりました。 ◆事業の周知活動 静岡商工会議所製造業部会に出席し、本事業の周知を図り、助成制度の活用促進に努めることができた。同様に、静岡市清水商工会、蒲原商工会、由比町商工会にも周知した。 (日時)3月5日 15:30~ 静岡商工会議所清水事務所会議室
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策 方針	IV産業・経済 1 都市型産業集積を旨とした産業構造の知的 高度化			
		大 施 策	(2)地域産業の活力強化			
		中 施 策	②経営基盤とマーケティング力の強化			
	産業振興 のプラン 位置付け	基本 方向	2 生活の質を高める産業の振興			
		基本 方針	(1)マーケットを重視した事業展開 の促進			
基本 施策		③販路開拓支援				
所属部会	■商品開発部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 工業支援担当		事業 担当 (記載事項)	改善 点 ・ 目標 の 未達成 理由等	◆平成25年度は、当補助金を利用した企業に対しアンケートを実施する予定です。効果的な結果を得られるような設問を準備する必要があり、精査をしていきます。 ◆今年度、本補助金利用者からの聞き取りの結果、海外へのニーズが汲みとれたため、来年度から海外展示会への出展事業者に対して、助成を強化します。来年度のアンケート実施を含め、事業者のニーズを把握し、制度に柔軟性を持たせるように努めていきます。 ◆当該補助制度を知らない企業がなくなるように、補助金の周知方法を検討しています。	
事業 担当課等	経済局商工部 地域産業課 工業支援担当					

事業 13	方針等 区分	(方針2) 事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援 (施策3) 情報戦略、製品開発、販路開拓等への支援		平成24年度				
	事業名	中小企業の新規市場開拓・新分野 進出への支援(情報発信・ビジネ スマッチングの機会提供)		予算額	5,769 千円			
				決算額	4,644 千円			
	事業概要	新規顧客開拓や新分野進出を目指 す市内企業を支援するため、情報発 信やビジネスマッチングの機会提供 を推進します。		取 組 状 況 (9/1現在)	まちみがき戦略推進プラン事業 「中小企業の新規市場開拓・新分野進出への支援」 (情報発信・ビジネスマッチングの機会提供) ・おた研究・開発フェア 10月4日・5日 募集終了 参加企業2社 ・中小企業総合展 10月10～12日 東京ビックサイト 募集終了 出展企業7社 ・おた工業フェア 2月2日～4日 募集終了 参加企業2社 ・ものづくり基盤技術保有状況調査及び技術PR冊子の発行 アンケート(実施済み) 500社 ヒアリング(現在実施中) 100社 【今後の予定】 ・おた研究・開発フェア 10月4～5日 2社 ・中小企業総合展 10月10～12日 東京ビックサイト 参加企業7社 ・おた工業フェア 2月2～4日 2社 ・技術PR冊子の発行 25年3月			
					補 足 事 項	進 捗 率 等	9月1日 現在	(支援事業への参加企業数) (新規顧客開拓件数) (新分野進出・業務転換企業数)
	3月31日 現在	(支援事業への参加企業数) 19社 (新規顧客開拓件数) 3件 (新分野進出 ・業務転換企業数) 6社	63.3 50.0 200.0 (%)					
	成果目標	支援事業への参加企業数 30社/3年 新規顧客開拓件数 6件/3年 新分野進出・業務転換企業数 3社/3年		事 業 評 価	■まちみがき戦略推進プラン事業 「中小企業の新規市場開拓・新分野進出への支援」 (情報発信・ビジネスマッチングの機会提供) ・おた研究・開発フェア(太田区)への市内企業派遣 10月4～5日 出展企業2社 ものづくり受発注商談会への市内企業参加幹旋 10月5日 参加企業3社 ・中小企業総合展(東京ビックサイト)への市内企業との共同出展 10月10～12日 参加企業7社 ※新規契約件数3件 ・おた工業フェア(太田区)への市内企業派遣 2月2～4日 参加企業2社 ・ものづくり基盤技術保有状況調査の実施(5月～10月) アンケート 500社 ・ヒアリング 100社 ・調査結果をまとめた市内企業技術PR冊子 「しずおか匠・工・巧(たくみ)ナビ」の発行 平成25年3月、5,000部発行、3,000部を首都圏企業に送付 ・静岡県立大学見学会 5社参加 ・「企業立地促進法」に基づく「企業立地計画・事業高度化計画」の 取得支援による市内企業の新分野進出支援 事業認定20社、新分野進出6社 ◇支援事業への参加企業 19社 ◇新規顧客開拓件数 3件 ◇新分野進出・業務転換 6社			
	総合計画 の 位置付け (分野別) IV産業 ・経済	政策 方針			事 業 結 果			
		大 施 策						
		中 施 策						
まちみがき 戦略推進 プランの 位置付け	ビジ ョン	「鳥の眼」ビジョン	事 業 結 果					
	政策 の 柱	地元産業の活性化						
産業振興 プランの 位置付け	基本 方向		次 年 度 に 向 け た 改 善 点 ・ 目 標 の 未 達 成 理 由 等					
	基本 方針				・「しずおか匠・工・巧ナビ」を活用したビジネスマッチングの推進 ・首都圏における市内企業の更なる情報発信			
	基本 施策							
担当課等	経済局商工部 産業政策課 企業立地担当		そ の 他 (特 記 事 項)					

事業 14	方針等 区分	(方針2) 事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援 (施策4) 経営資源確保のための環境整備		平成24年度			
	事業名	マーケティング支援講座の実施		予算額	指定管理料115,644千円の一部		
				決算額	指定管理料115,644千円の一部		
	事業概要	産学交流センターにおいて、中小事業者等のマーケティング発想の醸成を図り、市場ニーズに対応した製品・サービスの開発を支援するため専門家等によるセミナー・研修を実施します。		取組状況 (9/1現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング支援講座 6回 受講者数 472人 (内訳) <ul style="list-style-type: none"> ・5/17「小が大を超えるマーケティングの法則とは？」 受講者数118人 ・6/5「『A4』1枚アンケートで利益を5倍にする方法」 受講者数121人 ・6/15「企業のためのマーケティング情報収集・活用手法(2012年版)」 受講者数44人 ・7/12「中小企業のためのFacebook活用基礎講座」 受講者数98人 ・8/25「マスコミに取り上げられるプレスリリース(初級者向け)」 受講者数37人 ・8/29「話題の『行動観察』、概要と実践ポイント」 受講者数54人 【今後の予定】 <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング支援講座 6回 		
					補足事項	進捗率等	9月1日現在
	3月31日現在	(開催回数) 12回 (受講者数) 877名	33.3 41.8 (%)				
	成果目標	開催回数 36回/3年 受講者数 2,100人/3年 (※再掲 事業5の内数)		事業 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング支援講座 13回 受講者数 987人 (内訳) <ul style="list-style-type: none"> ・5/17「小が大を超えるマーケティングの法則とは？」 受講者数118人 ・6/5「『A4』1枚アンケートで利益を5倍にする方法」 受講者数121人 ・6/15「企業のためのマーケティング情報収集・活用手法(2012年版)」 受講者数44人 ・7/12「中小企業のためのFacebook活用基礎講座」 受講者数98人 ・8/25「マスコミに取り上げられるプレスリリース(初級者向け)」 受講者数37人 ・8/29「話題の『行動観察』、概要と実践ポイント」 受講者数54人 ・10/11「安売りせずに、お客さんをごっちり掴む技術」 受講者数: 69名 ・10/23「～アイデアは才能では生まれない～ ヒットする商品の開発のしかた」 受講者数: 90名 ・11/16「『売れる』スタッフ育成法」 受講者数: 53名 ・11/28「アート&デザイン、海外への商品展開に必要なルールとは？」 受講者数: 49名 ・12/4「0円で8割をリピーターにする集客術」 受講者数: 83名 ・1/17「中小企業のブランド価値の見つけ方、育て方」 受講者数: 61名 ・3/8「変化の時代に求められるリーダーシップとは」 受講者数: 110名 		
	総合計画の位置付け (分野別) IV産業・経済	政策方針	IV産業・経済 1 都市型産業集積を目指した産業構造の知的高度化 【再掲】 5 すぐれた能力と意欲ある人材の育成・支援		事業 評価	次年度に向けた改善点・目標の未達成理由等 引き続き、セミナー受講者のニーズを把握し、セミナーのテーマの選定に活かしていく。	
		大施策	(2) 地域産業の活力強化 【再掲】 (5) 地域を担う多様な人材の活用と育成				
		中施策	③経営基盤とマーケティング力の強化 【再掲】 ①起業家精神の醸成と起業家の育成 ②経営者・経営幹部の意識改革による経営能力の向上				
	産業振興プランの位置付け	基本方向	2 生活の質を高める産業の振興	事業 評価	次年度に向けた改善点・目標の未達成理由等 引き続き、セミナー受講者のニーズを把握し、セミナーのテーマの選定に活かしていく。		
		基本方針	(1) マーケットを重視した事業展開の促進				
		基本施策	①マーケティング力の強化				
	担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		その他 (特記事項)			

事業 15	方針等 区分	(方針2)事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援 (施策4)経営資源確保のための環境整備		平成24年度					
	事業名	専門家による窓口相談		予算額	中小企業支援センター運営補助金33,600千円の一部				
				決算額	中小企業支援センター運営補助金33,600千円の一部				
	事業概要	中小企業支援センターにおいて、 専門の異なる中小企業診断士等による 窓口相談を実施します。		取 組 状 況	現 況 (9/1現在)	・窓口相談企業数 133社 ・窓口相談件数 157社 (業種別内訳) 製造業 8件、卸売業 7件、建設業 1件、小売業 16件、 サービス業 93件、その他 32件 (支援内容別内訳) 創業 75件、経営革新 21件、その他 61件			
						補 足 事 項	進 捗 率 等	9月1日 現在	(相談件数) 17.5 (%)
								3月31日 現在	(相談件数) 47.5 (%)
	成果目標	相談件数 900件/3年		事 業 評 価	事 業 結 果	(各項目の数値は3月31日実績) ・窓口相談企業数 402社 ・窓口相談件数 483件 (業種別内訳) 製造業 28件、卸売業12件、建設業 6件、 小売業 46件、サービス業 268件、その他 42件 (支援内容別内訳) 創業 272件、経営革新 44件、その他 167件			
	総合計画 の 位置付け (分野別) IV産業 ・経済	政策 方針	IV産業・経済 1 都市型産業集積を目指した産業構 造の知的高度化						
		大 施 策	(2) 地域産業の活力強化						
		中 施 策	③経営基盤とマーケティング力の強化						
	産業振興 プランの 位置付け	基本 方向			次 年 度 に 向 け た 改 善 点 ・ 目 標 の 未 達 成 理 由 等				
		基本 方 針							
		基本 施 策							
	担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		そ の 他 (特記事項)					

事業 16	方針等 区分	(方針2) 事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援 (施策4) 経営資源確保のための環境整備		平成24年度			
	事業名	コンサルティングの実施		予算額	中小企業支援センター運営補助金33,660千円及び 清水産業・情報プラザ指定管理料83,491千円の一部		
				決算額	中小企業支援センター運営補助金33,660千円及び 清水産業・情報プラザ指定管理料83,491千円の一部		
	事業概要	中小企業支援センター及び清水産業・情報プラザにおいて、専門家を 事業者に派遣し、問題解決のための 診断・助言を行います。		取 組 状 況 (9/1現在)	【中小企業支援センター】 ・専門家派遣企業数 18社 ・専門家派遣件数 33社 (派遣内容内訳) 経営全般 19件、マーケティング 7件、IT 7件 (派遣業種内訳) 製造業 9件、卸売業 1件、建設業 6件、 小売業 2件、サービス業 13件、その他 2件 【清水産業・情報プラザ】 ・専門家派遣件数 3件 (派遣内容内訳) 現場作業改善コース 1件、エコアクション21取得コース 1件 品質向上コース 1件 (派遣業種内訳) 製造業 2件、卸売業 1件 ・今後の予定 派遣申込者2社に対して派遣する専門家を決定する。		
					補 足 事 項	進 捗 率 等	9月1日 現在
	3月31日 現在	(派遣回数) 112件 16.9 (%)					
	成果目標	派遣回数 660件/3年		事 業 評 価	【中小企業支援センター】 (数値は3月31日現在) ・専門家派遣企業数 62社 ・専門家派遣件数 123社 (派遣内容内訳) 経営全般 48件、マーケティング 16件、 ビジネスプラン 26件、IT 25件、その他 8件 (派遣業種内訳) 製造業 28件、卸売業 13件、建設業 13件、 小売業 10件、サービス業 42件、その他 17件 【清水産業・情報プラザ】 ・専門家派遣件数 10件 (派遣内容内訳) 現場作業改善コース 7件、エコアクション21取得コース 1件 品質向上コース 2件 (派遣業種内訳) 製造業 8件、卸売業 2件		
	総合計画 の 位置付け (分野別) IV産業 ・経済	政策 方針	IV産業・経済 1 都市型産業集積を目指した産業構 造の知的高度化		事 業 結 果		
		大 施 策	(2) 地域産業の活力強化				
		中 施 策	③経営基盤とマーケティング力の強化				
産業振興 プランの 位置付け	基本 方向		次 年 度 に 向 け た 改 善 点 ・ 目 標 の 未 達 成 理 由 等	【中小企業支援センター】 これまでのHPでの周知以外に、産学交流センターのセミナー等の 事業においても、専門家派遣制度の積極的な周知に努め、1社でも多 くの企業に利用してもらえるよう努める。 【清水産業・情報プラザ】 次年度は、BOP策定を支援コースに追加し、コースの充実を図る。			
	基本 方針						
	基本 施 策						
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		そ の 他 (特記事項)				

事業	方針等区分	(方針2)事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援 (施策4)経営資源確保のための環境整備		平成24年度			
	事業名	専門家の指導による商品企画・開発支援		予算額	産学交流センター指定管理料115,644の一部		
				決算額	産学交流センター指定管理料115,644の一部		
	事業概要	産学交流センターにおいて、マーケティング等の専門家を活用し、地域資源を活かした商品づくりに対する支援を行います。		取組状況 現況 (9/1現在)	<p>【「静岡おみやプロジェクト」支援事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト期間 平成24年6月14日～平成25年3月末 ・参加企業数 6社 ・9月1日現在において、マーケティングアドバイザーによる講義・個別対応、フードコーディネーターによる講義・個別対応を実施。参加企業は、磨き上げ商品の商品企画及び企画書精査を実施。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイナーによる講義を経たのち、テストマーケティング(11月末) ・商談会(2月) ・成果発表会及び販売会(3月) 		
					補足事項	進捗率等	9月1日現在
				3月31日現在	(支援プロジェクト数) 1件	33.3 (%)	
	成果目標	商品企画・開発支援プロジェクト プロジェクト数 3件/3年		事業評価	<p>【「静岡おみやプロジェクト」支援事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト期間 平成24年6月14日～平成25年3月末 ・参加企業数 6社 ・マーケティングアドバイザーによる講義・個別対応、フードコーディネーターによる講義・個別対応、デザイナーによる講義・個別対応を実施。参加企業は、磨き上げ商品の開発及び商品パッケージの完成。 ・11月24～25 テストマーケティング実施 ・2月21日 商談会実施 ・3月5日 成果発表会実施 ・3月23～24 お披露目販売会実施 		
	総合計画の位置付け (分野別) IV産業・経済	政策方針	IV産業・経済 1 都市型産業集積を目指した産業構造の知的高度化				
		大施策	(2) 地域産業の活力強化				
		中施策	③ 経営基盤とマーケティング力の強化				
	産業振興プラン位置付け	基本方向	2 生活の質を高める産業の振興	次年度に向けた改善点・目標の未達成理由等	<p>今年度からプロジェクト参加企業に対して、プロジェクト終了後3年間、毎年度成果品に関する実績報告書を提出させることとした。必要に応じて、産学交流センター・中小企業支援センターの支援メニューによる支援を実施したり、他の支援機関への引き継ぎ等を実施する。</p>		
		基本方針	(1) マーケットを重視した事業展開の促進				
		基本施策	① マーケティング力の強化				
	担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		その他 (特記事項)			

事業 18	方針等 区分	(方針2) 事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援 (施策4) 経営資源確保のための環境整備		平成24年度						
	事業名	起業に向けたビジネスプラン策定等の支援	予算額	SOHOしずおか運営補助金14,500千円及び産学交流センター指定管理料115,644千円の一部						
			決算額	SOHOしずおか運営補助金14,500千円及び産学交流センター指定管理料115,644千円の一部						
	事業概要	新規に事業展開を目指す事業者等を対象にコンテストを実施、受賞者に対する事業化に向けた支援を実施します。	取組状況 (9/1現在)	現況	10月26日を応募期限として、ビジネスプランを募集中。 9月1日までに、セミナー開催数 2回実施、受講者数 65人					
					【今後の予定】 ・応募締め切り 10月26日 ・書類審査 11月上旬 ・プレゼン審査 11月30日、12月1日 ・最終審査会 2月13日					
	補足事項		進捗率等	9月1日現在	(コンテスト応募件数) 1件 (応募支援中の件数) 62.5 (%) (応援支援中50件)					
				3月31日現在	(コンテスト応募件数) 112件 (目標に対する応募件数) 140 (%)					
	成果目標	コンテスト応募件数 80件/年		事業 評価	事業結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスプランは、過去最多となる112件の応募があった。 ・書類審査(11月上旬実施)において、プレゼン審査に進出する一般部門15者、学生部門9者を選出。 ・プレゼン審査(11月30日、12月1日実施)において、最終審査会に進出する一般部門6者、学生部門4者を選出。 ・最終審査会を2月13日(水)に実施。審査会終了後、表彰式及び交流会を実施。 ・本事業に関するセミナー開催数 実施回数7回 参加者数188人 				
	総合計画の位置付け (分野別) IV産業・経済	IV産業・経済 政策方針 1 都市型産業集積を目指した産業構造の知的高度化 【再掲】 5 すぐれた能力と意欲ある人材の育成・支援	中 施策 ③経営基盤とマーケティング力の強化 【再掲】 ①起業家精神の醸成と起業家の育成				事業 評価	事業結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスプランは、過去最多となる112件の応募があった。 ・書類審査(11月上旬実施)において、プレゼン審査に進出する一般部門15者、学生部門9者を選出。 ・プレゼン審査(11月30日、12月1日実施)において、最終審査会に進出する一般部門6者、学生部門4者を選出。 ・最終審査会を2月13日(水)に実施。審査会終了後、表彰式及び交流会を実施。 ・本事業に関するセミナー開催数 実施回数7回 参加者数188人 	
		大 施策 (2) 地域産業の活力強化 【再掲】 (5) 地域を担う多様な人材の活用と育成								基本 方向 4 チャレンジ精神に富む人材・企業 の 輩出、育成
基本 方針 (1) 創業支援		基本 施策 ①インキュベート機能の強化								
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		その他 (特記事項)							

事業 19	方針等 区分	(方針2) 事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援 (施策4) 経営資源確保のための環境整備		平成24年度		
	事業名	創業者等の営業機会拡大等のための 各種事業の実施	予算額	清水産業・情報プラザ指定管理料83,491千円及びSOHOしずお か運営補助金14,500千円の一部		
			決算額	清水産業・情報プラザ指定管理料83,491千円及びSOHOしずお か運営補助金14,500千円の一部		
	事業概要	清水産業・情報プラザ及びSOHO しずおかにおいて、創業者等の経 営相談や営業機会拡大等のための各 種事業を実施します。	取 組 状 況 現 況 (9/1現在)	(清水産業・情報プラザ) ・専門アドバイザーによる定期相談 9回 23件 ・今後の予定 定期相談16回程度実施		
				(SOHOしずおか) ・起業相談 160件 ・経営相談 567件 ・ブレイクスルーセミナーの開催 開催数 4回、参加者数 360人 ・その他、イノベーションセミナー、勉強会、創業応援塾の開催		
	補 足 事 項		進 捗 率 等	9月1日 現在	(相談件数) 合計750件	62.5 (%)
				3月31日 現在	(相談件数) 合計1,602件	133.5 (%)
	成果目標	相談件数 1,200件/3年 営業機会拡大等に関する各種支援の実施		事 業 評 価	事業結果 (清水産業・情報プラザ) 専門アドバイザーによる定期相談 開催回数 22回 相談件数 56件 (SOHOしずおか) ・起業相談 315件 ・経営相談 1,509件 ・ブレイクスルーセミナーの開催 開催数 7回、参加者数 910人 ・その他、イノベーションセミナー、勉強会、創業応援塾の開催	
	総合計画 の 位置付け (分野別) IV産業 ・経済	政策 方針	IV産業・経済 1 都市型産業集積を目指した産業 構造 の知的高度化			
		大 施 策	(2) 地域産業の活力強化			
中 施 策		③経営基盤とマーケティング力の強化				
産業振興 プラン 位置付け	基本 方 向	4 チャレンジ精神に富む人材・企業 の 輩出、育成	次 年 度 に 向 け た 改 善 点 ・ 目 標 の 未 達 成 理 由 等			
	基本 方 針	(1) 創業支援				
	基本 施 策	①インキュベート機能の強化				
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		そ の 他 (特記事項)			

事業 20	方針等 区分	(方針2)事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援 (施策4)経営資源確保のための環境整備		平成24年度		
	事業名	専門家の指導等による商品企画・開発 等支援の拡充(新商品・特許)		予算額	7,150 千円	
				決算額	4,688 千円	
	事業概要	市内中小企業・製造業者が行う新商品開発 及び特許等の産業財産権出願などに関する 経費の一部を助成します。また、助成事業の 範囲を拡充します。		取 組 状 況 (9/1現在)	◆新商品等開発助成 新規性・市場性・事業完了見込等を基準とした審査を経て、9月1日現在、3件の補 助金交付申請を受理しています。今後、12月～1月に中間検査、年度末の事業完 了報告を経て補助金を交付します。(交付見込額:2,158千円)	
					◆産業財産権出願等助成 9月1日現在、補助金交付申請件数12件 特許:7件、意匠:1件、実用新案:4件 今後、事業完了報告を経て補助金を交付します。(交付見込額:1,646千円)	
	補 足 事 項			進 捗 率	9月1日 現在	(新商品助成件数) 3件予定 53.2 (産業財産権助成件数) 12件予定 (2事業合計の予算執行率) (%)
					3月31日 現在	(新商品助成件数) 3件 25.0 (産業財産権助成件数) 20件 30.3 (%) (参考)2事業合計対予算執行率 68.7
	成果目標	新商品 12件/3年 産業財産権 66件/3年 (対象事業を拡充)		事 業 評 価 等	◆新商品等開発助成 新規性・市場性・事業完了見込等を基準とした審査を経て、3件の補 助金交付申請を受理しました。各事業所とも課題点等はあったものの、 順調に開発が完了しました。(執行額:1,976千円)	
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策 方針	IV産業・経営 1 都市型産業集積を旨とした産業構造の知 的高度化		◆産業財産権出願等助成(3月31日現在) 以下の補助金交付申請件数がありました。 申請件数20件(内訳)特許12件、意匠2件、実用新案6件 (執行額 2,712千円)	
		大 施 策	(3) 知的産業を支える知的経営資源の活 用強化		◆事業の周知活動 静岡商工会議所製造業部会に出席し、本事業の周知を図り、助成制度 の活用促進に努めることができました。同様に、静岡市清水商工会、蒲原商 工会、由比町商工会にも周知した。 (日時)3月5日 15:30~ 静岡商工会議所清水事務所会議室	
中 施 策		① 研究開発力の強化				
産業振興 のプラン 位置付け	基本 方向	2 生活の質を高める産業の振興	〔事務担当 記載項目〕 所属部会 からの 意見及び 指摘事項		◆補助制度が存在していても、事業者がその存在について知らなければ、利 用することはできない。補助制度について全般的に言えることだが、当補 助金も同様に、より事業者の耳に入るよう周知の方法を検討し、実践して いただきたい。	
	基本 方針	(1) マーケットを重視した事業展開 の促進				
	基本 施策	①マーケティング力の強化				
所属部会	■商品開発部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 工業支援担当		〔事業担当 記載事項〕 改善点 ・ 目標の 未達成 理由等	◆現在、静岡商工会議所、産学交流センター(B-nest)、静岡県工業技術セ ンター、静岡県発明協会、静岡県中央会などにPR用チラシを配置してい るところですが、今後は中小事業者が頻りに集まる機会をとらえ、そのよ うな場へ積極的に向向き、補助制度を説明します。		
事業 担当課等	経済局商工部 地域産業課 工業支援担当					

事業 21	方針等 区分	(方針2)事業者のニーズに基づく経営資源確保への支援 (施策4)経営資源確保のための環境整備		平成24年度			
	事業名	大学等研究機関への相談機会の拡充		予算額	産学交流センター指定管理料115,644千円の一部		
				決算額	産学交流センター指定管理料115,644千円の一部		
	事業概要	<p>市内のものづくり事業者の大学等研究機関に対する相談機会の拡充を図る。 静岡市ものづくり産業振興基本計画を策定するにあたり、市内中小事業者等へのヒアリングを実施したところ、次のようなコメントが多数聴かれた。</p> <p>■中小事業者の主なコメント 「商品開発への取組みに際して、大学等の研究機関に相談を掛けたいと思う機会が度々あるが、具体的にどこへどのように行けばよいのかわからない。」 「大学等の研究機関に相談できず、解決策に行き着かないまま終わってしまうことが多々ある。」</p> <p>そのため、中小事業者の多様なニーズを汲み取るとともに、大学等の研究機関などとの結び付きを図る中間支援機能が必要とされていることから、今回の基本計画の策定に際して事業化が図られた経緯がある。</p>		取組状況	現況 (9/1現在)	<p>(今後の取組み)</p> <p>◆中小事業者が抱えるニーズの把握 静岡商工会議所製造業部会のご協力を得ながら、中小事業者が抱える商品開発への課題などを含むニーズや技術的問題等に関して、恒常的な把握に努める。</p> <p>◆産学連携事業の拡充 ①産学交流センターにおいて、市内中小企業を対象とした市内大学産学連携コーディネーターによる講座を開催(11/16) ②本市における産学連携による産業支援を充実させる目的で、市内大学の産学連携推進機関のコーディネーターと産業支援機関との情報交換の場とする「静岡地区産学連携コーディネーター会議」を10月から開催予定している。</p>	
					進捗率	9月1日現在	(相談回数)0回 0(%)
						3月31日現在	(相談回数)2回 33.3(%)
	成果目標	相談機会 6回/3年		事業評価等	事業結果	<p>■地域産業課 ・今年度は、来年度からの実質的な取組みを進めるための準備期間とした。 ・静岡商工会議所製造業部会を通じた中小事業者のニーズの汲み取りに向けて、同商工会議所中小企業相談所清水支所経営支援課(製造業部会事務局)等との打合せを実施予定(2~3月)。具体的には、「静岡大学イノベーション社会連携推進機構」を製造業部会に紹介し、実質的な活用促進に向けて説明する。これらは、静岡商工会議所だけでなく、静岡市清水商工会、蒲原商工会、由比町商工会にも周知を図ることができた。</p> <p>■産業政策課 (産学交流センター) ・11月16日、市内中小企業者等を対象とした産学連携特別セミナーを開催。出席者52名(企業等) ・1月22日 中小企業向け大学見学会(静岡県立大学)実施。 参加企業数5社 ・静岡地区産学連携コーディネーター会議 10月から1回開催</p>	
	総合計画の位置付け(分野別)	政策方針					
		大施策					
		中施策					
産業振興のプラン位置付け	基本方向						
	基本方針						
	基本施策						
所属部会	<p>■商品開発部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 工業支援担当</p>		<p>(事務担当) 記載項目 所属部会からの意見及び指摘事項</p>	<p>・産学官連携事業において、事業者と大学が共振し、具体的な共同研究事業を見据えられることが大切であると感じる。 具体的には、大学側が得意とする内容を事業者に対して、一方的に講義を行うのではなく、事業者が望むようなテーマを大学側が感じ取り、そのテーマについて講演を行うといったことである。この点を踏まえて、今後の事業を進めてもらいたい。</p>			
事業担当課等	<p>経済局商工部 地域産業課 産業経営担当 産業政策課 新産業担当</p>				<p>(事業担当) 記載事項</p> <p>改善点 ・ 目標の未達成理由等</p>	<p>■地域産業課 製造業部会及び同会事務局との連携強化を図りつつ、静岡大学イノベーション社会連携推進機構を介した具体的な取組みを提起できる環境整備に向けて支援に努めていきます。</p> <p>■産業政策課 次年度も引き続き、産学連携を促進するセミナー等の実施や、企業向けの大学見学会を実施し、企業と大学とを結びつける機会を積極的に提供していきたい。</p>	

事業 22	方針等 区分	(方針3) 連携を活かした新たな取組みの推進 (施策5) 多様な分野との新たな連携や取組みへの支援		平成24年度			
	事業名	産学官交流事業の推進	予算額	産学交流センター指定管理料115,644千円及び清水産業・情報プラザ指定管理料83,491千円の一部			
			決算額	産学交流センター指定管理料115,644千円及び清水産業・情報プラザ指定管理料83,491千円の一部			
	事業概要	中小企業の新商品開発、新事業進出などを支援するため、産学交流センターや清水産業・情報プラザにおいて、情報提供や大学と企業との交流・連携事業を実施します。	取組状況 (9/1現在)	(産学交流センター) ・9月1日現在、実績なし ・今後の予定 地域課題に係る産学共同研究委託事業における研究成果発表会の後、交流会を開催予定(平成25年3月) (清水産業・情報プラザ) ・産学官講演会・交流会 開催数 2回、受講者数99人 ・今後の予定 産学官講演会・交流会 開催数 5回			
				進捗率等	9月1日現在	(交流会開催数) 2回	9.5 (%)
					3月31日現在	(交流会開催数) 7回	33.3 (%)
	成果目標	交流会開催数 21回/3年 交流・連携に関する情報提供の実施		事業評価	(産学交流センター) 平成25年3月15日 地域課題に係る産学共同研究委託事業における研究成果発表会の後、交流会を開催。参加者数60名(3月31日現在) (清水産業・情報プラザ) ・産学官講演会・交流会 開催数 6回、受講者数354人		
	総合計画の位置付け (分野別) IV産業・経済	政策方針					
		大施策					
		中施策					
産業振興プラン位置付け	基本方向	4 チャレンジ精神に富む人材・企業の輩出、育成	次年度に向けた改善点・目標の未達成理由等	(産学交流センター) 成果発表会に少しでも多くの企業が参加し、産学連携の成果を実際に見聞きしてもらえるよう、効果的な情報提供に努める。 (清水産業・情報プラザ) 引き続き、多くの方が参加されるよう、広報に努めていく。			
	基本方針	(2) 新事業展開や製品・技術・研究開発の支援					
	基本施策	①産学官、異分野交流・連携の推進					
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		その他 (特記事項)				

事業 23	方針等 区分	(方針3) 連携を活かした新たな取組みの推進 (施策5) 多様な分野との新たな連携や取組みへの支援		平成24年度		
	事業名	異業種交流事業の推進		予算額	128千円	
				決算額	128千円	
	事業概要	地域経済の活性化、新産業及び新事業の創出を促進する各種団体への助成等を行うことにより、異業種間の交流を行い、情報、技術等の交換により、相互交流事業の推進と経営意識の高揚、経営ノウハウの構築を推進します。		取組状況 現況 (9/1現在)	静岡商工会議所異業種企業交流会の会員を対象に講演会を開催 ・講演会開催数 4回、参加者数 140人 ・今後の予定 講演会 4回、視察 1回	
		補足事項	進捗率等			
	成果目標	異業種交流を推進する団体への助成		3月31日現在		
	総合計画の 位置付け (分野別) IV産業・経済	政策方針			事業結果	静岡商工会議所異業種企業交流会の会員を対象に講演会を開催 (講演会) 実施回数 8回 参加者数 286人 (視察) 実施回数 1回 参加者数 21人
		大施策				
		中施策				
	産業振興 プラン 位置付け	基本方向	4 チャレンジ精神に富む人材・企業の輩出、育成		事業評価	次年度に向けた改善点・目標の未達成理由等
基本方針		(2) 新事業展開や製品・技術・研究開発の支援				
基本施策		①産学官、異分野交流・連携の推進				
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		その他 (特記事項)			

事業 24	方針等 区分	(方針3) 連携を活かした新たな取組みの推進 (施策5) 多様な分野との新たな連携や取組みへの支援		平成24年度		
	事業名	メーカーとクリエイターのマッチング・ブランド化の支援	予算額	6,600千円の一部		
			決算額	上記6,600千円の一部及び関東センターからの委託料約4,000千円		
	事業概要	海外を含む著名なクリエイターと地域企業、地元クリエイターと海外企業、あるいは地域のクリエイターと企業とのビジネスマッチングにより、高い付加価値を持った新商品の開発・ブランド化等を推進します。	取組状況 (9/1現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチングプロジェクト(C+プロジェクト)を実施 ・参加企業5社決定。現在、クリエイターを選定中。 		
				補足事項	進捗率等	
			9月1日現在	(新商品開発件数)		(%)
			3月31日現在	(新商品開発件数) 6件	200	(%)
	成果目標	マッチングによる新商品開発数 3件/3年				
	総合計画の位置付け (分野別) IV産業・経済	政策方針	IV産業・経済 1 都市型産業集積を目指した産業構造の知的高度化		事業結果	
		大施策	(1) 地域の特性を活かした多彩な産業の集積促進			
中施策		②創業と新事業展開の推進強化				
産業振興プラン位置付け	基本方向	3 次代を担う産業集積の構築		事業評価		
	基本方針	(1) 新産業クラスターの形成				
	基本施策	②コンテンツ産業の振興				
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		その他 (特記事項)		次年度に向けた改善点・目標の未達成理由等 今回は、国の外郭団体の関東センターより、委託を受けテストマーケティングを実施した。 次年度は、外からの資金を受け入れなければ、今年度と同様な新商品開発ができない。	

事業 25	方針等 区分	(方針3) 連携を活かした新たな取組みの推進 (施策5) 多様な分野との新たな連携や取組みへの支援		平成24年度			
	事業名	農商工連携の推進		予算額	中小企業支援センター運営補助金33,660千円の一部 千円		
				決算額	中小企業支援センター運営補助金33,660千円の一部 千円		
	事業概要	第一次製品の生産拡大を包括したマーケティング支援事業を展開、専門家を活用し、地域資源を活用した既存商品を、さらに「売れる商品」に向上させるための事業を実施します。		取組 状況 (9/1現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業体の掘り起こし支援 中小企業支援センターにおいて、新連携事業、地域資源活用プログラム、農商工連携の国の事業認定申請につながる事業体の掘り起こし等の支援を実施中。 ・先進事例研究 中部地域6次産業化ネットワーク連絡会(事務局:静岡県中部農林事務所)が主催する「6次産業化・農商工連携の事例を学ぶ視察研修会」に出席(8月3日) ・今後の予定 産学交流センターを中心に、農商工連携に関する取り組みの方向性を探索 		
					補足事項	進捗率等	9月1日現在
				3月31日現在	事業体の掘り起こし 7者		
	成果目標	農商工連携による商品開発への支援		事業 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・事業体の掘り起こし支援 中小企業支援センターにおいて、新連携事業、地域資源活用プログラム、農商工連携の国の事業認定申請につながる事業体を計7者掘り起こし、支援を実施した。 ・6次産業化・農商工連携に関する先進企業等の視察 6次産業化・農商工連携の事業スキームを作るため、6次産業化・農商工連携に取り組む企業等計3者に対し、事業展開の方法等のヒアリングを実施した。 ・今後の予定 農業政策課とともに、来年度の6次産業化・農商工連携の事業スキームについて協議する。 		
	総合計画の 位置付け (分野別) IV産業 ・経済	政策方針					
		大施策					
		中施策					
産業振興 プラン 位置付け	基本方向	2 生活の質を高める産業の振興	次年度 に向けた 改善点 ・ 目標の 未達成 理由等				
	基本方針	(1) マーケットを重視した事業展開の促進					
	基本施策	②生産・流通・消費の連携促進					
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		その他 (特記事項)				

事業 26	方針等 区分	(方針3)連携を活かした新たな取組みの推進 (施策5)多様な分野との新たな連携や取組みへの支援		平成24年度			
	事業名	フーズ・サイエンスヒルズプロジェクトの推進		予算額	2,000千円		
				決算額	2,000千円		
	事業概要	<p>県のプロジェクトに参加、プロジェクトで得られた成果を普及し、地域産業界における事業化を促すとともに、産学官連携の一層の強化、次代を担う人材育成等を行います。</p>		取組 状況 (9/1現在)	<p>・フーズ・サイエンスセミナーin静岡の実施 7月3日 参加者数 153人 ・技術相談会・マーケティング相談会の実施 7月24日 相談件数10件 ・食品等開発研究会の参加企業及びテーマの決定 市内企業数は6社 テーマは非常食、和・洋菓子、発酵食品、調味料の4種類</p> <p>・今後の予定 フーズ・サイエンスセミナー 2回実施(焼津市、藤枝市) 技術相談会・マーケティング相談会 2回実施(焼津市、藤枝市) 食品等開発研究会 新製品(試作品)の開発</p>		
		補足事項	進捗率等		9月1日 現在		
	成果目標	プロジェクトの推進		3月31日 現在	<p>セミナーの実施 3回 技術相談会・マーケティング相談会 3回 食品等開発研究会 新製品(試作品)の開発完了</p>		
	総合計画 の 位置付け (分野別) IV産業 ・経済	政策 方針	IV産業・経済 1 都市型産業集積を目指した産業構造の知的高度化		事業 評価	事業結果	<p>・フーズ・サイエンスセミナーの実施 セミナー 開催回数3回 参加者数513人 (うち1回200人は予定参加者数)</p> <p>・技術相談会 開催回数3回 相談件数33件 ・マーケティング相談会 開催回数3回 相談件数15件</p> <p>・食品等開発研究会 11月に試作品の内覧会を実施し、また12月に商談会を実施した。 3月末までに新製品(試作品)の開発を完了予定。</p>
		大 施策	(3)地域産業を支える知的経営資源の活用強化				
		中 施策	①研究開発力の強化				
	産業振興 プラン 位置付け	基本 方向	3 次代を担う産業集積の構築		次年度 に向けた 改善点 ・ 目標の 未達成 理由等	セミナーは、フーズ・サイエンスヒルズプロジェクトにおける事業成果を含めて講演を行う予定。 技術相談会については、応募者数が比較的小さいことから、中止を含めて検討する。	
基本 方針		(1)新産業クラスターの形成					
基本 施策		①健康・環境クラスターの形成推進					
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		その他 (特記事項)				

事業 27	方針等 区分	(方針3) 連携を活かした新たな取組みの推進 (施策5) 多様な分野との新たな連携や取組みへの支援		平成24年度	
	事業名	地域結集型研究開発プログラムの 推進		予算額	5,000千円
				決算額	5,000千円
	事業概要	地域産学官の連携のもと、世界 市場を視野に入れた新世代茶飲料 ・素材の開発・事業化を目指しま す。		取 組 状 況 (9/1現在)	【研究テーマ】 「香味向上を目指した茶栽培・加工工程への光技術等の活用と実用化への 研究」 「茶を原料とした飲料・素材の開発と実用化に関する研究」 「カテキン類の味覚・機能性等の評価と安全性に関する研究」 【実施期間】 平成21年1月～平成25年12月
	補 足 事 項			進 捗 率 等	3月31日 現在 ・セミナー実施 1回 ・研究開発継続実施中(平成25年12月まで)
	成果目標	プログラムの推進		事 業 評 価	事業結果 ・白葉茶、高香味発揚茶セミナーの実施(60名参加見込み) ・平成25年2月7日実施 参加者: 101名
	総合計画 の 位置付け (分野別) IV産業 ・経済	政策 方針	1 都市型産業集積を目指した産業構 造の知的高度化		
		大 施 策	(3) 地域経済を支える知的経営資源 の活用強化		
		中 施 策	①研究開発力の強化		
産業振興 プラン 位置付け	基本 方向	3 次代を担う産業集積の構築	次 年 度 に 向 け た 改 善 点 ・ 目 標 の 未 達 成 理 由 等	〈改善点〉 ・本プログラムの研究成果により、白葉茶などの試作品が生まれつつあ るが、さらに事業化に向けた販売戦略が必要。 ・研究成果及び事業化について、地元企業や農家への落とし込みがなさ れるよう、引き続き提言していく。	
	基本 方針	(1) 新産業クラスターの形成			
	基本 施 策	①健康・環境クラスターの形成推進			
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		そ の 他 (特 記 事 項)		

事業 28	方針等 区分	(方針3) 連携を活かした新たな取組みの推進 (施策5) 多様な分野との新たな連携や取組みへの支援		平成24年度	
	事業名	駿河湾地域循環型社会の推進と 新事業の創出プロジェクトの推進		予算額	10,000千円
				決算額	10,000千円
	事業概要	「駿河湾地域新事業推進研究会」 が推進する、地域資源を活用した 産学官連携による新事業創出に向 けた活動に対し支援を実施します。		取 組 状 況 (9/1現在)	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度左記研究会総会において、名称を「駿河湾地域事業化プロ ジェクト」に変更。 平成24年度、同プロジェクトが取り組む研究活動計画 <ul style="list-style-type: none"> 三保地下水を利用した高付加価値魚介類養殖研究（東海大学） 野草等からの有効成分抽出と製品化への実証研究（静岡大学） 農商工連携による地域特産柑橘の高機能化生産プロセスの構築研究 （静岡大学） 植物の天然抽出物による事業化向け応用研究（静岡県立大学） <p>平成24年度事業化件数 1件（タツノオトシゴ（鑑賞用）の販売事業）</p>
		補 足 事 項			
	3月31日 現在			（事業化件数）2件 66.7（%）	
	成果目標	事業化件数 3件／3年		事 業 評 価	<p>事業結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度左記研究会総会において、名称を「駿河湾地域事業化プロ ジェクト」に変更。 平成24年度、同プロジェクトが取り組んだ研究活動計画 <ul style="list-style-type: none"> 三保地下水を利用した高付加価値魚介類養殖研究（東海大学） 野草等からの有効成分抽出と製品化への実証研究（静岡大学） 農商工連携による地域特産柑橘の高機能化生産プロセスの構築研究 （静岡大学） 植物の天然抽出物による事業化向け応用研究（静岡県立大学） <p>平成24年度事業化件数 2件（タツノオトシゴ（鑑賞用）の販売事業、陸上養殖あわび試験 販売）</p>
	総合計画 の 位置付け (分野別) IV産業 ・経済	政策 方針	IV産業・経済 1 都市型産業集積を旨とした産業 構造の知的高度化		
		大 施 策	(3) 地域産業を支える知的経営資源 の活用強化		
		中 施 策	①研究開発力の強化		
産業振興 プラン 位置付け	基本 方 向	3 次代を担う産業集積の構築	次 年 度 に 向 け た 改 善 点 ・ 目 標 の 未 達 成 理 由 等		
	基本 方 針	(1) 新産業クラスターの形成			
	基本 施 策	②環境関連産業の振興			
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		そ の 他 (特 記 事 項)		

事業	方針等区分	(方針3)連携を活かした新たな取り組みの推進 (施策5)多様な分野との新たな連携や取り組みへの支援		平成24年度			
	事業名	アーティストとのコラボレーション支援推進 (ニューウェーブしずおか創造事業)		予算額	5,010 千円		
				決算額	4,992 千円		
	事業概要	静岡の特色を活かした家具等の次代を担う新商品の開発を支援し、新規流通開拓を模索するため、意欲的企業による研究会の組織、デザイナー等とのコラボレーションによる新商品開発等に取り組みます。		取組状況 現況 (9/1現在)	<ul style="list-style-type: none"> ●プロデューサーの選定 ／プロデューサー1名を選定し、事業の詳細手法について協議した ●事業参加企業の募集と決定 ／地元業界に広く告知し参加社の募集活動を展開。地元企業及び工房等11者が参加を決定。参加者を集め研究会を組織した ●デザイナーの公募 ／事業参加デザイナーの公募活動を開始。インターネットを中心手法として全国的に広く募集活動を開始 		
					補足事項	進捗率	9月1日現在
	3月31日現在	(%)					
	成果目標	開発点数 平成24～25年度 20点 (平成26～27年度 20点)		事業結果	<ul style="list-style-type: none"> ●プロデューサーの選定 ／プロデューサー1名を選定し、事業の詳細手法について協議した ●事業参加企業の募集と決定 ／地元業界に広く告知し参加社の募集活動を展開。地元企業及び工房等12社11組が参加を決定。参加者を集め研究会を組織した ●デザイナーの公募 ／事業参加デザイナーの公募活動を実施。インターネットを中心手法として全国的に広く募集し11組を選出した。 ●デザイン開発の進行 ／事業参加者とデザイナーがプロデューサー指導のもとデザイン開発の協議を行い、開発品を決定。デザイン開発を行った。 ●実施会合等 ／事業参加者事業説明会 2回 プレゼンテーション交流会 1回 視察バスツアー 1回 研究会 6回(うち全体会2回) 		
	総合計画の位置付け(分野別)	政策方針	IV産業・経済 5 すぐれた能力と意欲ある人材の育成・支援		事業評価等	<ul style="list-style-type: none"> ■デザイナー活用について ／デザイナーの書いたものはきれいでかつこよいが、なかなか売れないとよく言われています。それはなぜかをまず突き止めてください ／従来、デザイナーとのコラボレーションを行うと、デザイナー中心のものとなり、作り手側は材料費・加工費だけという事が多い。そのため、なかなか前に踏み出す事が出来ない。 	
		大施策	(3)地域産業を支える知的経営資源の活用強化				
		中施策	②産学官・産業界・企業間の交流と連携の推進				
産業振興のプラン位置付け	基本方向	2 生活の質を高める産業の振興	所属部会からの意見及び指摘事項	<ul style="list-style-type: none"> ■改善点等 参加企業とデザイナーとのマッチングを図るため、デザイナー公募前に企業視察ツアーを実施し、参加希望デザイナーに企業の商品や技術を把握してもらうことで、開発の的確化を図った。 ■開発点数 2年継続事業であり、商品の試作開発は2年目となる。初年度はデザイン開発となるため開発点数は0となっている。 			
	基本方針	(1)マーケットを重視した事業展開の推進					
	基本施策	④地域・伝統産業の近代化推進					
所属部会	<ul style="list-style-type: none"> ■伝統工芸創造部会 部会員 ものづくり審議会委員5人 ■事務担当 地場産業担当 		改善点・目標の未達成理由等				
事業担当課等	<ul style="list-style-type: none"> ■経済局商工部 地域産業課 地場産業担当 						

事業 30	方針等 区分	(方針3)連携を活かした新たな取組みの推進 (施策5)多様な分野との新たな連携や取組みへの支援		平成24年度				
	事業名	新産業開発振興機構の活用に関する 検討		予算額	10,000 千円			
				決算額	10,000 千円			
	事業概要	<p>これまでの新産業開発振興機構の活動実績を踏まえつつ、今後の市内ものづくり事業者との新たな連携を含めた活用の検討を推進する。</p> <p>新産業開発振興機構は、会員企業の技術や販路等に関する経営資源のハイブリッド化を図り、時代のニーズに応じた「ものづくり」や「ビジネスモデル」の研究に取り組む本市の重要な地域資源の一つである。</p> <p>そのような機構の事業概要は、産学連携や産学官連携による新産業創出に向けた研究開発をはじめ、新産業レポートなどの情報発信、県内学術研究機関（静岡大学・静岡県立大学等）との交流事業、講習会等の研修事業などを幅広く展開している。</p> <p>このように市内の中小企業が多数参加する当該機構の連携を模索する中では、これまでにない業界との連携を視野に入れ、本市のものづくり産業における新たな展開の検討を進める必要性がある。具体的には、深刻な後継者不足等を抱えながらも、若手クラフトマンの育成などにも尽力する伝統工芸分野とのコラボレーションも、当該機構の新規展開事業として、その一つの選択肢に含まれるものとの期待から事業化が図られた経緯がある。</p>		取組状況 (9/1現在)	◆今後の取組み 事業概要を踏まえ、まずは事前に機構と協議し、新たな事業展開を模索するための素地を整え、最終的に機構として取り組む事業の一つに位置付けてもらう必要がある。その上で、以下に掲げる事項を順次取り組み、新しい静岡市のものづくり産業の展開に結び付けていくことが重要である。 ◇熱意ある事業者の参集 新産業開発振興機構や伝統工芸分野の双方が、本市のものづくり産業の振興に向けて新しい歩みを模索する機会を持つことが必要と考えられる。 ◇静岡市ならではの逸品づくりに向けた新しい枠組み すでに機構が有する多様な経営資源の活用を図る中、新しい枠組みでの静岡市ならではの逸品づくりについては、それぞれに相応の負担が伴うものの、機構、伝統工芸、参加事業者の前向きな参加に基づく枠組みが前提となる。			
					進捗率	9月1日 現在		
						3月31日 現在		
	成果目標	新産業開発振興機構の活用の推進		事業結果	<p>■地域産業課 ・今年度は、来年度からの実質的な取り組みを進めるための準備期間とした。 ・来年度における取り組みに向けて、新産業開発振興機構（事務局：静岡商工会議所産業経済部新産業課）及び本市の伝統工芸を取り扱う静岡特産工業協会等との打合せを実施する。（2～3月） ・来年度においては、前述の打合せ結果などを踏まえつつ、新産業開発振興機構及び静岡特産工業協会の反応を考慮しながら、当該機構の活用を前向きに検討していくものとする。</p> <p>■産業政策課 地域企業の産学連携・産学連携による新事業創出を目指す同機構に対し、財政的な支援をすることで、会員企業の新規開発テーマの情報提供として、テーマ探索研究会の開催（1月）、大学等のシーズ紹介を主な内容とした産学官交流会（4月・7月・9月）の開催等、会員企業に対し、新事業創出のきっかけを提供する事業が行われてきた。 今後同機構の支援を通じて、会員企業を中心とした地域における産学連携・産学連携を推進していきたい。</p>			
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策方針			事業 評価 等 (事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項	<p>■最終目標は新しい伝統工芸品を開発することだと思います。そのためには普段我々がつきあっているデザイナーにまず、開発振興機構を知ってもらう必要がある。その上で事業29を取り込み、3者合体で商品開発をしたらどうでしょう。</p>		
		大施策						
		中施策						
産業振興 のプラン 位置付け	基本方向		改善点 ・ 目標の 未達成 理由等	<p>■地域産業課 新産業開発振興機構及び静岡特産工業協会との連携強化を図る。</p> <p>■産業政策課 引き続き、新しい事業の創出につながる機会の提供、会員企業等への効果的な支援等が行われるよう同機構に求めていく。</p>				
	基本方針							
	基本施策							
所属部会	<p>■伝統工芸創造部会 部会員 ものづくり審議会委員5人 ■事務担当 地場産業担当</p>							
事業 担当課等	<p>経済局商工部 地域産業課 産業経営担当 産業政策課 新産業担当</p>							

事業 31	方針等 区分	(方針3) 連携を活かした新たな取組みの推進 (施策6) 研究開発や事業化等に関する支援		平成24年度			
	事業名	地域課題に係る産学共同研究への支援		予算額	指定管理料115,644千円の一部		
				決算額	指定管理料115,644千円の一部		
	事業概要	<p>経済環境の変化に伴い生じている高度で複合的な地域課題を解決するため、地域や産業界が大学の知識・人材・分析能力を生かして共同で取り組む調査・研究に対する委託事業を実施します。</p>		取組状況 (9/1現在)	<p>【産学交流センター】 地域課題に係る産学共同研究委託事業：委託研究数 5件</p> <ul style="list-style-type: none"> 『液体菌糖を応用した咀嚼（そしゃく）効果の豆乳・おからドーナツの研究開発』 『高機能・高品質トマトの隔離土耕栽培における最適土量の確立』 『高品質生薬「ミシマサイコ」生産を目指した効率的洗浄・加工方法の開発』 『酸・アルカリ性電解水を用いた食肉の新規殺菌方法の確立』 『認知症改善プログラムの研究開発』 <p>(委託期間) 委託締結日(平成24年7月初旬)～平成25年2月28日 (成果発表) 平成25年3月中旬予定</p>		
					補足事項	進捗率等	<p>9月1日現在 (産学共同研究数) 5件 33.3 (%)</p> <p>3月31日現在 (産学共同研究数) 5件 33.3 (%)</p>
	成果目標	産学共同研究数 15件/3年		事業 評価	事業結果	<p>【産学交流センター】 地域課題に係る産学共同研究委託事業：委託研究数 5件</p> <ul style="list-style-type: none"> 『液体菌糖を応用した咀嚼（そしゃく）効果の豆乳・おからドーナツの研究開発』 『高機能・高品質トマトの隔離土耕栽培における最適土量の確立』 『高品質生薬「ミシマサイコ」生産を目指した効率的洗浄・加工方法の開発』 『酸・アルカリ性電解水を用いた食肉の新規殺菌方法の確立』 『認知症改善プログラムの研究開発』 <p>(委託期間) 委託締結日(平成24年7月初旬)～平成25年2月28日 (成果発表会) 平成25年3月15日</p>	
	総合計画の 位置付け (分野別) IV産業・経済	政策方針	IV産業・経済 1 都市型産業集積を目指した産業構造の知的高度化				
		大施策	(1) 地域の特性を活かした多彩な産業の集積促進				
		中施策	③創業と新事業展開の推進				
	産業振興 プラン 位置付け	基本方向	4 チャレンジ精神に富む人材・企業の輩出、育成				
基本方針		(2) 新事業展開や製品・技術・研究開発の支援					
基本施策		①産学官、異分野交流・連携の推進					
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		その他 (特記事項)				
				次年度に向けた改善点・目標の未達成理由等			

事業 32	方針等 区分	(方針3) 連携を活かした新たな取組みの推進 (施策6) 研究開発や事業化等に関する支援		平成24年度			
	事業名	大学等研究成果の技術移転の推進		予算額	500千円		
				決算額	500千円		
	事業概要	中小企業と大学との「共同研究」、 大学から中小企業への「技術移転」等 産学官連携による新産業・新事業の 創出に向けた支援を行う技術移転機 関に対する助成を行います。		取 組 状 況 (9/1現在)	助成対象団体：静岡技術移転合同会社 大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に關 する法律第3条第4項に基づき、文部科学大臣及び経済産業大臣より実 施計画の承認を受けた、県内に所在地を有する唯一の団体（承認TLO）。 県内大学等（静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学、静岡理科大学、 沼津高専、国立遺伝学研究所）との連携により、「産学間における円滑 な技術移転の促進」を目的としている。 (9月1日時点の取組状況) ・展示会出席数 4月25～27日「BIO tect 2012」場所：東京ビッグサイト 7月24～25日「ビジネスマッチングフェア2012」 場所：浜松アクロシティ (今後の取組予定) ・展示会出席1件 10月10～12日「BioJapan2012」 場所：パシフィコ横浜（県大、浜医大、静大の成果を展示） ・マッチング会開催4回 11月20日 三島、11月30日 豊橋、12月6日 浜松、 12月17日 静岡 ・技術移転・技術相談対応、仲介		
		補 足 事 項			進 捗 率 等	9月1日 現在	
						3月31日 現在	
	成果目標	技術移転機関への助成		事 業 評 価	助成対象団体：静岡技術移転合同会社 大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進 に關する法律第3条第4項に基づき、文部科学大臣及び経済産業大臣 より実施計画の承認を受けた、県内に所在地を有する唯一の団体（承 認TLO）。 県内大学等（静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学、静岡理工科 大学、沼津高専、国立遺伝学研究所）との連携により、「産学間にお ける円滑な技術移転の促進」を目的としている。 ・展示会出席 4月25～27日「BIO tect 2012」場所：東京ビッグサイト 7月24～25日「ビジネスマッチングフェア2012」 場所：アクロシティ浜松 10月10～12日「BioJapan2012」場所：パシフィコ横浜 (県大、浜医大、静大の成果を展示) 10月24日～26日「オプトロニクス72012in浜松」 場所：アクロシティ浜松 1月24日～25日「はままつメッセ2013」場所：アクロシティ浜松 ・マッチング会開催5回 11月27日 豊橋、12月6日 浜松、12月17日 静岡、 1月17日 三島、3月13日 静岡 ・技術移転3件、技術相談対応・仲介12件		
	総合計画 の 位置付け (分野別) IV産業 ・経済	政策 方針	IV産業・経済 1 都市型産業集積を目指した産業構 造の知的高度化		事業 結 果		
		大 施 策	(1) 地域の特性を活かした多彩な産 業の集積促進				
		中 施 策	③創業と新事業展開の推進				
産業振興 プラン 位置付け	基本 方向	4 チャレンジ精神に富む人材・企業 の 輩出、育成	次 年 度 に 向 け た 改 善 点 ・ 目 標 の 未 達 成 理 由 等				
	基本 方針	(2) 新事業展開や製品・技術・研究 開 発 の 支 援					
	基本 施 策	①産学官、異分野交流・連携の推進					
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		そ の 他 (特記事項)				

事業 33	方針等 区分	(方針3)連携を活かした新たな取り組みの推進 (施策6)研究開発や事業化等に関する支援		平成24年度			
	事業名	産業構造の将来予測等に関する調査 研究の検討		予算額	0千円		
				決算額	0千円		
	事業概要	<p>今後、ものづくり産業に関する施策形成等に関して、産業の空洞化等を含めた将来予測を試み、基礎データの蓄積と活用に関して検討する。</p> <p>歴史的な円高等に見るグローバルな経済動向により、我が国の製造業を中心とするものづくり産業では各地で空洞化が進行するほか、電力不足が懸念されるなど憂慮をいとわない経済環境にある。静岡市のものづくり産業も同様であり、生産拠点の海外移転などを試みる中小製造事業者が多数見られ、今後の静岡市におけるものづくり産業の将来に不安を否めない状況にある。</p> <p>このような現状を踏まえ、静岡市のものづくり産業の振興を図る上では、今後のものづくり産業の動向及び構造等に関する将来予測を検討し、一定のスケールモデルを得て、それを見定める中で必要な施策展開などを考えていく必要性から事業化を図った経緯がある。</p>		取 組 状 況 現 況 (9/1現在)	◆将来予測等に関する基礎資料の集積に向けて 今後、基本計画の見直しや次期基本計画の策定に向けて、必要不可欠な本市ものづくり産業の将来予測等に関する基礎資料を整えるため次のとおり、県内の経済及び経営に関する大学の教員に協力を依頼して、予測モデル等の検討を進めているところである。		
					進 捗 率	9月1日 現在	0
						3月31日 現在	0
	成果目標	3年間検討し、調査研究結果を報告書として作成		事 業 結 果	<p>■来年度事業の骨格づくり 高い専門性を要する事業であるため、基本的に大学の研究者に事業への参画と協力を求めるほか、静岡市ならではの将来予測を試みる観点から、地域産業、マクロ経済学(統計学)、公共政策の三点を基軸とした事業の骨格づくりに努めた。</p> <p>■大学研究者との打合せ 前項を踏まえ、県内大学の研究者を訪問し、事業の趣旨等を説明するなどの打合せを行い、来年度の事業実施に向けた人的資源の確保にほぼ見通しを付けることができた。</p> <p>■事業予算の要求 本事業の推進にあたり、将来動向の予測、基本計画登載事業の検討調査研究部会との連携などの業務を含め、地域産業、マクロ経済学、公共政策を専門分野とする大学研究者に協力を求めるための諸費用を来年度予算に要求した。なお、予算額の確定は年度末の議会開催以降となることに留意する必要がある。</p>		
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策 方針			事 業 評 価 等 (事務担当 記載項目) 所 属 部 会 か ら の 意 見 及 び 指 摘 事 項	<p>■「必要」な事業の戦略的な推進に向けて 今後のものづくり関連事業への取り組みをはじめ、特に次期ものづくり基本計画を策定するためにも、現状における本市の産業動向を把握しておかなければ、対応策等(事業)の立案に至らない。 換言すれば、現状を静観して対策を講じない場合、そして、現時点での見通しに基づく必要な対策の検討とその比較考量にあると考えられる。また、これらの検討にあたっては、行政だけでなく、製造現場からの見解を含めたものづくり委員をはじめ、専門性の高い領域に精通する方々を交え、多様な観点から熱心に議論を尽くす必要がある。</p>	
		大 施 策					
		中 施 策					
産業振興 の プラン 位置付け	基本 方 向		事 業 評 価 等 (事務担当 記載項目) 所 属 部 会 か ら の 意 見 及 び 指 摘 事 項	<p>■関係機関との連携強化 ものづくり審議会や調査研究部会などの事業関係機関との連携を強化し、精度の高い産業動向を見通しに努める必要がある。</p>			
	基本 方 針						
	基本 施 策						
所属部会	<p>■調査研究部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 産業経営担当</p>		事 業 担 当 (記載事項)	改善点 ・ 目標の 未達成 理由等			
事業 担当課等	<p>経済局商工部 地域産業課 産業経営担当</p>						

事業 34	方針等 区分	(方針3)連携を活かした新たな取組みの推進 (施策6)研究開発や事業化等に関する支援		平成24年度			
	事業名	地域間競争に臨む戦略的方策等の検討		予算額	0千円		
				決算額	0千円		
	事業概要	<p>地域間競争の激化が想定される昨今において、他地域に先んじた本市ものづくり産業の生き残り戦略に関し、本市の強みを活かして検討する。</p> <p>全国各地の製造業を中心とするものづくり産業（産業がクラスター化された地域等を含む）にあつては、今後ますます地域間あるいは都市間競争の激化が想定される。そのような状況を踏まえて、本市のものづくり産業の振興を図る上では、事業33の産業構造の将来予測等に関する調査研究検討事業で得られたスケールモデル等の知見を活かすとともに、本市の強みを考慮しながら、本市ならではの生き残り戦略の検討が必要なことから事業化が図られた経緯がある。</p> <p>その他、研究開発・人材育成・人的ネットワークの形成などに関する理工系大学等の誘致やものづくり先進都市等の取り組みにおいても、地域間競争に臨む戦略的方策を検討する上での重要な要素と考えられる。</p>		取 組 状 況	現況 (9/1現在)	<p>◆現時点では、特に進捗なし。</p> <p>◆他事業との連携の必要性</p> <p>静岡市で検討される地域間競争の戦略的方策等については、地域の素材、資源、強みなどを再評価するとともに、今後の将来動向を見据えた対応が必要となる。そのため、同部会担当の「理工系大学の誘致など」に関する事業をはじめ、「産業構造の将来予測等」に関する事業や「先進都市等の調査研究」事業の成果を踏まえ、それぞれの連携を図る中で進めていく必要がある。</p> <p>さらに、必要に応じて、今後育成を図り、成長を期待する分野の事業を担当する他部会の取組みを視野に入れた連携も考慮する。</p>	
					進 捗 率	9月1日 現在	0
						3月31日 現在	0
	成果目標	3年間検討し、調査研究結果を報告書として作成		事 業 評 価 等	事 業 結 果	<p>■事業の実施に向けた準備期間</p> <p>本事業は、単独で進められるものではないため、事業33の産業構造の将来予測等に関する調査研究検討事業や事業35のものづくり先進都市等に関する調査研究事業などとの関連を踏まえるとともに、それら知見等の蓄積から本市の戦略的方策を検討するものである。</p> <p>このことから、今年度は関連事業が徐々に進捗しているため、本事業の実施に向けた準備期間と捉えているところである。</p>	
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策方針					
		大施策					
		中施策					
産業振興 のプラン 位置付け	基本方針		<p>■「特質」と「総合」の複眼的視点による検討</p> <p>事業結果からも、本事業は静岡市が他地域より先んずる戦略的方策を検討するものであるため、他部会等を取り組む事業にも注意を払い静岡市の素材を見出すことが重要である。</p> <p>この事業は、次期ものづくり基本計画の策定とも、かなり重複する部分があるように推測されるため、実質的に策定作業に継承されていくものと思われる。従って、今後の検討にあつては、特質すべき素材の抽出と計画立案の総合性の両社を兼ねた視点のもとで、戦略的方策の作成に努めてほしい。</p>				
	基本方針						
	基本施策						
所属部会	<p>■調査研究部会 部会員 ものづくり審議会委員3人</p> <p>■事務担当 産業経営担当</p>		<p>（事業担当 記載事項）</p> <p>改善点 ・ 目標の 未達成 理由等</p>	<p>■他事業及び他部会との連携</p> <p>他地域にない本市ならではの戦略的方策の基盤に関して、他事業との連携強化を図りつつ、地域における貴重な素材・資源（ヒト・モノ等）の抽出に努めるものとする。</p> <p>さらに、素材や資源を見出すとともに、それらが有機的に生かされ他地域に見られない相乗効果の創出に向けた仕組みに関しても、並行的に検討を加えるものとする。</p>			
事業 担当課等	<p>経済局商工部 地域産業課 産業経営担当</p>						

事業 35	方針等 区分	(方針3)連携を活かした新たな取組みの推進 (施策6)研究開発や事業化等に関する支援		平成24年度				
	事業名	ものづくり先進都市等に関する調査研究		予算額	155千円			
				決算額	108千円			
	事業概要	<p>ものづくり産業の将来展望を模索する上でも、先進都市の動向などを調査研究し、今後の産業別計画及び次期基本計画の策定に向けた基礎資料の整備とものづくり事業者等への情報提供に資することを検討する。</p> <p>具体的には、計画期間の各年度で1都市を対象として、必要に応じて審議会委員の同行のもと実施される。</p> <p>平成24年度では、政令指定都市の北九州市を対象に、官営製鉄所からの公害発生とその克服、そして、環境技術を基盤とした新たな動向に加え、地域に残る伝統工芸等に関する施策を含めて調査を実施した。</p>		取組 状況 (9/1現在)	<p>◆ものづくり先進都市の視察調査の実施 今年度の調査都市は、学術研究機構等を有する北九州市と定め、次のとおり、視察調査を実施した。</p> <p>①日時等 7月26～27日(木金) 福岡県北九州市 ②対象 産業政策課、貿易振興課、中小企業振興課、新産業振興課 公益財団法人 北九州産業学術推進機構 (FAIS) 北九州イノベーションギャラリー (KIGS) ③実施者 静岡市ものづくり産業振興審議会 太田委員(当部会員) 地域産業課 産業経営担当 佐藤、山田 ④概要 事業概要書記載のとおり ・北九州マイスター事業、北九州技の達人事業 ・中小企業技術開発振興助成金事業、新商品創出事業 ・国際競争力強化事業、海外見本市等出展助成金事業 ・FAIS及びKIGSの活動事業</p>			
					進捗率	9月1日 現在	(調査都市数) 北九州市(1都市)	33.3(%)
						3月31日 現在	(調査都市数) 北九州市(1都市)	33.3(%)
	成果目標	3都市/3年 (調査研究報告書の作成)		事業 評価 等	<p>■北九州市への調査研究の実施 ものづくり先進都市である北九州市への調査研究については、次のとおり、特に地域産業課が担当する事業との関連性を重視して実施したところである。調査研究結果については、今後の静岡市におけるものづくり事業に示唆を与える内容も確認されたが、独自の事業が進められているためか、事業成果と地元産業界の期待に距離感が否めない結果が散見された。調査研究報告書については、このような点などを含め、3月末までに取りまとめ、その後、ものづくり審議会等に報告する予定である。</p> <p>例えば、 ・事業4 理工系大学の誘致と学研都市(FAIS) ・事業7 伝統工芸技術秀士と北九州マイスター事業 ・事業20 商品企画、開発支援と中小企業技術開発振興助成金 ・事業12 見本市出展助成強化と海外見本市等出展助成金 ・事業48 ものづくり体験学習イベントと 北九州イノベーションギャラリー(KIGS)</p>			
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策 方針						
		大 施策						
		中 施策						
産業振興 のプラン 位置付け	基本 方向		<p>■調査研究都市の選定 北九州市の調査研究概要を聞くところでは、本市の事業展開に意義を感している。来年度の先進都市等の調査研究においては、本市のものづくり産業における深刻な産業分野に関する都市や地域を念頭に置いて事業に取り組んでほしいところである。</p> <p>例えば、本市の伝統工芸を含む地場産業については、後継者の高齢化や担い手の育成不振などの喫緊の課題を抱えている。この点に関して、金沢市の北陸地方や新潟三条市・燕市などの中越地方における地場産業は、金沢ブランドをはじめ、国際市場に販路を切り開く力強さを感じられるため、前述の課題などへの対応を含め、調査研究先の候補地として検討をお願いしたい。</p>					
	基本 方針							
	基本 施策							
所属部会	<p>■調査研究部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 産業経営担当</p>		<p>(事業担当 記載事項)</p> <p>改善点 ・ 目標の 未達成 理由等</p>	<p>■静岡大学イノベーション社会連携推進機構教授の視座 イノベーション社会連携推進機構の林教授によれば、ローテクを用いた地場産品でも、十分に市場で勝ち残っている。その核心はニーズにあり、必要とされているところに、必要な商品を届けることに徹すれば、業績の上向きが期待できる。</p> <p>■事業33 産業構造の将来予測等に関する事業との連携 この事業にご協力いただく研究者についても、可能な限り、先進都市等の調査研究にご参加いただき、将来予測等への知見蓄積に資する方向で事業展開を図る。</p>				
事業 担当課等	<p>経済局商工部 地域産業課 産業経営担当</p>							

事業 36	方針等 区分	(方針4)ものづくり産業を育てる環境整備 (施策7)企業の誘致及び市内留置の促進		平成24年度				
	事業名	企業立地の推進		予算額	430,000千円			
				決算額	283,597千円			
	事業概要	助成制度の強化、遊休・未利用地の再編、留置活動の総合的な取組みにより企業立地を推進します。		取組状況 現況 (9/1現在)	<p>市内企業の誘致、市内企業の留置に向けて、積極的な企業訪問を実施し、企業立地を促す情報提供や助成制度の提供により、企業立地の促進に努めている。</p> <p>市内の不動産情報を収集・提供する制度を設け、用地情報を市HPに掲載し、市内に立地を希望する企業等に対し、情報を提供しマッチングを進めている。</p> <p>企業立地促進法に基づく「企業立地計画」、「事業高度化計画」について、県知事の承認を得た中小企業の機械設備の導入に対し、その経費の一部を助成する助成制度を創設した。</p> <p>(9月1日時点の取組状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規企業立地件数 1件 ・市内企業訪問 252件 ・市外企業訪問 24件 ・企業立地相談件数 110件 			
		補足事項			進捗率等	9月1日現在	(新規企業立地件数) 7 (%)	
						3月31日現在	(新規企業立地件数) 19件 135.7 (%)	
	成果目標	新規企業立地件数 14件/年 (企業立地戦略指針) 平成20~24年度 70件/5年		事業 評価	■新規企業立地件数 19件			
	総合計画の位置付け (分野別) IV産業・経済	政策方針	1 都市型産業集積を目指した産業構造の知的高度化		事業結果	<p>市内企業の誘致、市内企業の留置に向けて、積極的な企業訪問を実施し、企業立地を促す情報提供や助成制度の提供により、企業立地の促進に努めている。</p> <p>市内の不動産情報を収集・提供する制度を設け、用地情報を市HPに掲載し、市内に立地を希望する企業等に対し、情報を提供しマッチングを進めている。</p> <p>企業立地促進法に基づく「企業立地計画」、「事業高度化計画」について、県知事の承認を得た中小企業の機械設備の導入に対し、その経費の一部を助成する助成制度を創設した。</p> <p>(参考事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内企業訪問 523件 (平成25年3月末) ・市外企業等訪問 68件 (") ・企業立地相談件数 205件 (") 		
		大施策	(1) 地域の特性を活かした多彩な産業の集積促進			次年度に向けた改善点・目標の未達成理由等		
		中施策	①企業の誘致と留置の促進					
産業振興プラン位置付け	基本方向	3 次代を担う産業集積の構築						
	基本方針	(2) 物流クラスターの強化・・・※1 (3) 企業等の誘致・留置・・・※2						
	基本施策	※1 ③低・未利用地の活用促進 ※2 ①県外企業等の誘致の推進 ②市内企業等の留置の推進						
担当課等	経済局商工部 産業政策課 企業立地担当		その他 (特記事項)					

事業 37	方針等 区分	(方針4)ものづくり産業を育てる環境整備 (施策8)情報と窓口の一元化に向けた事業者支援体制の整備		平成24年度			
	事業名	国、県、民間の産業支援機関や団体と連携した支援		予算額	産学交流センター指定管理料115,644千円及び清水産業・情報プラザ指定管理料83,491千円の一部		
				決算額	産学交流センター指定管理料115,644千円及び清水産業・情報プラザ指定管理料83,491千円の一部		
	事業概要	国・県・民間の産業支援機関との連携・協力を得て、これら各機関の様々な情報を一元化し、ホームページや紙媒体の配置により利用しやすい方法で支援情報を提供します。		取組状況 現況 (9/1現在)	(産学交流センター) 産学交流センターのHPのトップページでは、「各種公募・補助金情報」、イベント情報、「講座・セミナー覧」の各コーナーにおいて国・県・他の産業支援機関の各種情報を提供しており、ビジネスに役立つような情報を一元的に提供している。 (清水産業・情報プラザ) リンク集より、国・県等の産業支援機関のトップページにリンクできるようになっている。金融機関等、多くの組織をリンク先として案内している。		
		補足事項	進捗率等		9月1日現在		
	成果目標	市産業支援施設ホームページ等における情報提供の推進		3月31日現在	情報提供の実施		
	総合計画の位置付け (分野別) IV産業・経済	政策方針			事業結果	(産学交流センター) 産学交流センターのHPのトップページでは、「各種公募・補助金情報」、イベント情報、「講座・セミナー覧」の各コーナーにおいて国・県・他の産業支援機関の各種情報を提供しており、ビジネスに役立つような情報を一元的に提供している。 この他、月2回メルマガ配信、HPにてFacebookページを開設、季刊誌F A C E 4回発刊、B-nest地下通路・7階ラウンジ各ショーケースにて産学交流センター各種事業の情報提供を実施。	
		大施策				(清水産業・情報プラザ) リンク集より、国・県等の産業支援機関のトップページにリンクできるようになっている。金融機関等、多くの組織をリンク先として案内している。 また、地域情報誌等に施設の広告を掲載し、情報提供を実施。	
		中施策					
	産業振興プラン位置付け	基本方向	4 チャレンジ精神に富む人材・企業の輩出、育成		事業評価 次年度に向けた改善点・目標の未達成理由等	(産学交流センター) 産学交流センターにおける文書の配架やショーケースの展示において、引き続き来館者の興味を引くようなディスプレイを心がける。	
基本方針		(2) 新事業展開や製品・技術・研究開発の支援		(清水産業・情報プラザ) 施設利用率向上のため、自主事業において施設利用の広報を実施していく。			
基本施策		②専門的な産業支援機関との連携による支援					
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		その他 (特記事項)				

事業 38	方針等 区分	(方針3)連携を活かした新たな取り組みの推進 (施策6)研究開発や事業化等に関する支援		平成24年度		
	事業名	中小企業の事業継続計画策定に 関する支援		予算額	産学交流センター指定管理料115,644千円の一部	
				決算額	産学交流センター指定管理料115,644千円の一部	
	事業概要	<p>事業継続計画（BCP）の策定に向けて 中小企業を対象とした情報提供や講座等 による各種支援を実施します。</p> <p>優良製造事業所へのヒアリングに際して、 東日本大震災後におけるBCPの策定 状況について尋ねたところ、策定済と回 答した事業所は少なく、ほとんどの事業 所が策定中、検討中、未着手、予定なし との反応であった。</p> <p>しかしながら、いずれの事業所もBCP には関心が高く、できれば策定に結び付 けていきたいとの意向も一方で確認され た。総じて、BCP策定への対応に關して は、優良事業所でも対応に苦慮する状況 が把握されたことから、それ以外の中小 企業においても、同様に重要な経営課題 の一つと推測されるため、基本計画の事 業として記載した経緯がある。</p>		取 組 状 況	現 況 (9/1現在)	(現況) 本市におけるBCP策定に関する支援については、情報提供や災害 時の危機管理に関するセミナーの実施など、普及・啓発に力点を置い た事業を展開している。
						(今後の取り組み) 産学交流センターにおいて、中小企業のためのBCP策定支援セミ ナー・相談会を開催予定（9月25日）
						9月1日 現在
	進 捗 率			3月31日 現在	(開催回数)セミナー 1回 (受講者数)70人	
		成果目標	情報提供、講座等の実施			
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策 方針			事業 結 果	<p>■地域産業課</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝統工芸分野におけるBCPの策定に関しても、必要性が高まると推察されることから、それらを含む静岡特産工業協会への普及啓発を促すとともに、今後の連携強化を図るため、打合せ会の開催した。(2月4日実施) 伝統工芸に携わる事業者に対して、産学交流センターにおけるセミナーへの参加を促すものとする。(2～3月) <p>■産業政策課</p> <ul style="list-style-type: none"> 産学交流センターにおいて、BCPに関する専門家派遣を3件実施した。 産学交流センターにおいて、BCP策定セミナーを9月25日に実施した。参加人数70名。 静岡県BCP研究会に入会し、定例会(計3回)に出席した。また、BCPに関するセミナー2件に参加した。
		大 施 策				
中 施 策						
産業振興 のプラン 位置付け	基本 方向			事 業 評 価 等	<p>■市内による連携促進</p> <p>製造業の中小企業を対象とした支援プロジェクトが静岡商工会議所で進められているが、その場で市の産業政策課からBCPの策定に関しても、支援に向けた課題として検討してほしいとの依頼があった。当然のこととして、静岡商工会議所では検討するものの、市の市内における連携も併せて進めほしい。</p> <p>つまり、それぞれの機関が「点」として動作するよりも、商工会議所、市の産業政策課、地域産業課が「線」、或いは「面」として課題への対応を図ることで、より幅広い対象に効果を及ぼすことができるのではないかと考えられるためである。</p>	
	基本 方針					
	基本 施策					
所属部会	<p>■調査研究部会 部会員 ものづくり審議会委員3人</p> <p>■事務担当 産業経営担当</p>		所 属 部 会 か ら の 意 見 及 び 指 摘 事 項	<p>(事務担当 記載項目)</p>		
事業 担当課等	<p>経済局商工部 地域産業課 産業経営担当 産業政策課 新産業担当</p>					
				改善点 ・ 目 標 の 未 達 成 理 由 等	<p>■地域産業課</p> <ul style="list-style-type: none"> 静岡特産工業協会との連携強化を図る。 9月25日に産学交流センターで開催されたセミナーにおいて、組合用のBCP策定マニュアルが平成24年度中に出来上がるとの説明であった。来年度では、その辺りを確認し、静岡特産工業協会への周知を含め、普及啓発に努めていくものとする。 <p>■産業政策課</p> <ul style="list-style-type: none"> 来年度は、清水産業・情報プラザの製造現場改善支援事業において、BCP策定を支援コースに追加する。 	

事業	方針等 区分	(方針5)ものづくり産業への理解促進と情報発信 (施策10)ものづくり産業と教育機関の連携強化		平成24年度		
	事業名	次世代育成プロジェクト事業		予算額	6,675千円	
				決算額	6,675千円	
	事業概要	登録された市内のさまざまな専門家等(スペシャリスト)の学校への講師招聘や、市立全小中学校における自立を含む職場体験学習推進事業等を実施します。		取組 状況 (9/1現在)	<ul style="list-style-type: none"> ■「スペシャリスト派遣事業」 スペシャリストや達人登録表から学校が講師を選び、授業や講演等を実施している。 ■「民間教育力活用事業」 各学校で、子どもたちの体験的な学習や問題解決的な学習を支援するため、外部講師(民間教育力)を導入している。 ■「自立を育む職場体験学習推進事業」 中学校において、連続3日間以上の職場体験学習を実施している。職場体験学習の受入事業所数の拡大のため、新規事業所の受入を図っている。 	
					補足事項	9月1日 現在
	成果目標	①スペシャリスト派遣事業 60件以上 ②民間講師活用人数 400人以上 (2,100人以上) ③連続3日間以上の職場体験学習の全校実施 ④職場体験学習受入事業所リスト掲載事業所数 150事業所(新規登録3件以上)		進 捗 率	3月31日 現在	①スペシャリスト派遣事業 56件 93.3 ②民間講師活用人数 484件 121.0 (約2,200人) (%) ③職場体験学習の実施 43校 100.0 ④掲載事業所数 144事業所 96.0 (新規登録12事業所)
					事業結果	
	39	総合計画の 位置付け (分野別) II文化・学習	政策方針	3 次代を担う人材の育成と環境の整備	事業 評 価	
		大 施 策	(1) 子どもたちの「生きる力」をはぐくむ教育の推進			
		中 施 策	⑦地域性を活かした特色ある教育の推進			
産業振興 プランの 位置付け	基本方向	4 チャレンジ精神に富む人材・企業の輩出、育成				
	基本方針	(4) 次代を担う人づくり	次年度 に向けた 改善点 ・ 目標の 未達成 理由等			
	基本 施 策	①起業家精神の醸成		<ul style="list-style-type: none"> ■「民間教育力活用事業」 ・事業再編に伴い「スペシャリスト派遣事業」は廃止となるが、「スペシャリスト派遣事業」の人材を取り込んだ新たな民間教育力活用事業を計画する。 ・キャリア教育担当者研修会等で、効果的な人材の活用の仕方について指導助言し、教育活動を充実させるようにする。 ■「自立を育む職場体験学習推進事業」 ・継続して受入事業所リストの登録数や職種を増やしていくことは、生徒の選択肢を増やすことと学校の受入事業所探しの負担軽減につながる。継続して受入事業所リストの充実を図る。 ・委員会が受入事業所リストの公示時期や、各校から提出される希望事業所の取りまとめ時期をできるだけ早くして、学校の事務手続きを支援する必要がある。受入事業所リストの公示時期や、各校から提出される希望事業所の取りまとめ時期を改善する。 		
担当課等	教育委員会事務局 教育部 学校教育課 企画管理担当		その他 (特記事項)			

事業	方針等区分	(方針5)ものづくり産業への理解促進と情報発信 (施策10)ものづくり産業と教育機関の連携強化		平成24年度				
	事業名	こどもクリエイティブタウンの整備	予算額	958,707千円				
			決算額	955,278千円				
	事業概要	仕事やものづくり体験ができる施設を整備し、地域企業や商店街、学校、市民活動団体等と一体となり、子どもたちの創造力の育成を目指します。	取組状況	現況 (9/1現在)	<p>◆工事関係 工事については、順調に進捗し、9月末に完了の見込みである。</p> <p>◆指定管理者関係 7月5日の市議会の議決を受け、指定管理者として榊丹青社を指定するとともに、準備委託業務を委託し、平成25年1月20日の開館に向けて準備中である。</p> <p>◆地位企業・商店街・学校等との連携 協力企業募集要項(H24年3月12日)、協力商店等募集要項(H24年7月9日)、学校利用の手引き(H24年2月8日)を策定し、チラシの配布、説明会の開催、個別依頼などにより展開中である。</p>			
				進捗率等	9月1日現在			
					3月31日現在	100% 平成25年1月20日開館		
	成果目標	平成25年1月開館 (指定管理者による運営)	事業評価	事業結果	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年9月16～17日 プレオープンイベント「ミニ・しずおか2012」実施 こども店長115人/こども社員467人/大人ボランティア61人 準備ワークショップ5回/仕事体験イベント5回 平成24年10月12日 内装整備工事完了 平成24年11月11日～ 開館準備リーダーズ92人/ワークショップ等5回 平成24年11月30日 清水駅西第一地区市街地再開発ビル竣工・引渡し 平成25年1月19日 開館式典実施 招待者120人/リーダーズ92人 平成25年1月20日 開館 			
	総合計画の位置付け (分野別) IV産業・経済	政策方針			IV産業・経済 5 すぐれた能力と意欲ある人材の育成・支援	事業評価	事業結果	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年1月19日 開館式典実施 招待者120人/リーダーズ92人 平成25年1月20日 開館
		大施策			(1) 地域経済を何う多様な人材の活用と育成			
		中施策						
産業振興プラン位置付け	基本方向	4 の チャレンジ精神に富む人材・企業の輩出、育成	事業評価	事業結果	<ul style="list-style-type: none"> 次年度に向けた改善点・目標の未達成理由等 講座等の応募状況にばらつきがあるので、対象年齢等にあった内容づくりやPRに力を入れていく。 こどもバザールひだまりパークを中心に、きめ細かなリニューアルに努める。 			
	基本方針	(4) 次代を担う人づくり						
	基本施策	②職業人としての意識・能力の涵養						
担当課等	経済局商工部 産業政策課 企画担当	その他 (特記事項)	※予算額は、こどもクリエイティブタウン建設事業費、同開設準備費、同管理運営経費の合算。					

事業 41	方針等 区分	(方針5) ものづくり産業への理解促進と情報発信 (施策10) ものづくり産業と教育機関の連携強化		平成24年度				
	事業名	高校生のインターンシップ事業		予算額	1,125千円			
				決算額	483千円			
	事業概要	<p>学生が在学中に職業体験を行うインターンシップ制度の普及・啓発に取り組めます。</p>		取組状況 (9/1現在)	<p>■対象 市内高校の2年生</p> <p>■ジュニアインターンシップの既実施数 ①実施高校数 5校 ②実施生徒数 19人</p> <p>■ジュニアインターンシップ受入事業所の新規開拓数 新規受入可能事業所数 13事業所</p> <p>■今後の予定 10～11月、1～2月にかけて5校実施予定。 ただし、実施人数未定。</p> <p>■予算執行予定額 ジュニアインターンシップ推進業務委託料 483,000円</p>			
		補足事項	<p>高校生の職業意識を高めるため、ジュニアインターンシップ受入事業所の新規開拓を行うとともに、実施期間や職種を希望校(生徒)が選択できるように充実した内容にしていきます。</p>			9月1日現在	実施生徒数 19人 21.1 (%)	
						3月31日現在	(参加者数) 86人 95.6 (%)	
	成果目標	参加者 90人/3年		事業評価	<p>■ジュニアインターンシップ実施数 ①実施高校数 8校 ②実施生徒数 86人</p> <p>■ジュニアインターンシップ受入事業所 70事業所</p> <p>■ジュニアインターンシップ受入事業所の新規開拓数 51事業所</p> <p>■ジュニアインターンシップ説明会 1校実施</p> <p>■ジュニアインターンシップ実施の可否確認 市内高校全校</p>			
	総合計画の位置付け (分野別) IV産業・経済	政策方針	5 すぐれた能力と意欲ある人材の育成・支援			事業結果		
		大施策	(2) 意欲ある人材の地域における就業支援					
		中施策	①企業と人材のマッチング					
産業振興プランの位置付け	基本方向	4 チャレンジ精神に富む人材・企業の輩出、育成	<p>次年度に向けた改善点・目標の未達成理由等</p> <p>平成24年度の参加生徒数は86名で、目標を達成できた。また、インターンシップ生と受け入れた企業の双方にアンケートを実施し、自己評価と他者評価を見比べる手法を取り入れ、それらをインターンシップ生にフィードバックすることで、高校生の就業意識向上に役立った。</p> <p>今年度未実施の市内高校22校に対して来年度の実施予定調査を行うとともに、ジュニアインターンシップ説明会を実施して、積極的な利用促進を図った。次年度は、今年度の手法を活かし、より多くの高校生の参加を促したい。</p>					
	基本方針	(4) 次代を担う人づくり						
	基本施策	②職業人としての意識・能力の涵養						
担当課等	経済局商工部 商業労政課 雇用労働政策室		その他 (特記事項)					

事業 42	方針等 区分	(方針5)ものづくり産業への理解促進と情報発信 (施策11)ものづくり創造都市に関する情報発信と理解促進		平成24年度			
	事業名	体験型観光プログラムの開発と誘客の推進		予算額	4,350千円		
				決算額	4,344千円		
	事業概要	地域産業を生かし、茶摘み、森林産業、漁業、伝統工芸品づくりなど、体験観光プログラムを開発するとともに、旅行代理店を通じて海外や首都圏等にセールスし、教育旅行や観光客の増加を図ります。		取組状況	現況	<p>■静岡型体験観光推進事業補助金による支援 静岡市内における体験教育旅行を受け入れている任意団体「しずおか体験教育旅行」の活動に対して助成を行う。 (平成24年度予算額 4,050千円)</p> <p>「しずおか体験教育旅行」は、実際に担当の先生方に、本市ならではの体験プログラムを体験していただくモニターツアーや県内外における誘致活動を行ったほか、教育旅行の受付窓口として、各種体験プログラムの取りまとめなど、学校側との調整等を行っている。</p> <p>■誘致活動の実施 しずおか体験教育旅行や静岡観光コンベンション協会と共働して国内外へ教育旅行の誘致活動を実施している(平成24年度予算額 300千円)</p> <p>・しずおか体験教育旅行、静岡観光コンベンション協会等と共同で、首都圏の小中学校への訪問・誘致活動や台湾での現地商談会へ参加し、本市の体験プログラムのPRを実施した。</p>	
		補足事項				9月1日現在	訪日教育旅行誘致件数 5件 (内訳)中国3件、台湾2件
	成果目標	首都圏や海外からの教育旅行の誘致推進 ・訪日教育旅行誘致件数 8件/年(平成22年度実績) ・体験プログラム実施数 3,830件/H22~H26計		進捗率	3月31日現在	<p>①訪日教育旅行誘致件数 7件 (内訳)中国3件、台湾3件、その他1件</p> <p>②体験プログラム実施数 2,679件/H22~24</p>	87.5 (%) 69.9
	総合計画の位置付け (分野別) IV産業・経済	政策方針	3 地域の魅力を活かした観光・交流産業の高度化		事業結果	<p>【市】</p> <p>①しずおか体験教育旅行に対して補助金を支出した。 ②しずおか体験教育旅行、静岡観光コンベンション協会と共同で誘致宣伝活動を実施した。</p> <p>【しずおか体験教育旅行】</p> <p>平成23年度に引き続き、震災の影響により激減した体験教育旅行、再度呼び戻すことを重点に、下記の宣伝・誘致活動や体験プログラムの充実に向けた取り組み等を行った。</p> <p>・来静を予定・検討している教育関係者による実地調査への同行 4月26~27日(八王子市内小学校、教育委員会から34名参加)</p> <p>・首都圏等の学校の先生や教育関係者、旅行会社を対象としたモニターツアー 7月27~28日(お茶体験、海洋体験等) 10月27~28日(砂金採り、わさび漬け作り体験等)</p> <p>・首都圏等への学校訪問・誘致活動 11月27~29日 岐阜県内の中学校訪問 12月4~6日 八王子市・横浜市内の小中学校等訪問 12月11~13日 横浜市内の小中学校訪問</p> <p>・台湾現地商談会への参加及び現地旅行会社訪問 6月13~15日 台北・台南・高雄の3都市で実施</p> <p>・台湾教育旅行関係者招請事業における商談会(福岡) 3月8日 台湾教育旅行関係者約60名</p>	
		大施策	(1)戦力的な観光振興による国際競争力のある観光地				
		中施策	⑤様々な主体による静岡ブランドの構築と国内外への発信				
	産業振興プランの位置付け	基本方針	1 まちを「楽しむ」産業の振興		事業評価	<p>次年度に向けた改善点・目標の未達成理由等</p> <p>震災以降、津波への不安等から本市を訪れる教育旅行は激減した。教育旅行は学校単位で行われるという性質上、一度行先が変更されるとある程度固定化されてしまうため、既に行先を変更した首都圏等の学校に対しては継続して誘致活動を行っていくとともに、新たに、これまで来静の少ない関西圏への誘致活動も並行して行っていく。</p>	
基本方針		(1)地域資源の観光活用					
基本施策		①体験型観光の振興					
担当課等	経済局商工部 観光・シティプロモーション課 観光振興担当		その他 (特記事項)	「体験型観光プログラムの開発」については事業43での取り組みと密接な関わりがある。			

事業 43	方針等 区分	(方針5)ものづくり産業への理解促進と情報発信 (施策11)ものづくり創造都市に関する情報発信と理解促進		平成24年度		
	事業名	産業観光等のニューツーリズム の推進		予算額	0千円	
				決算額	0千円	
	事業概要	お茶や伝統工芸などの豊富な産業資源を活用し、産業・体験型観光を活性化し、他地域との差別化を行い観光交流客の増加を図ります。		取組状況	現況	■産業観光の推進 「感動」や「体験」などの観光トレンドを追い風にして、地域の強みである産業資源を活用した観光メニューの開発と観光客受入の準備を推進する。
	成果目標	関係団体等との連携強化による体験プログラムの開発及び充実		進捗率	3月31日 現在	
					総合計画の位置付け (分野別) IV産業・経済	政策方針
	大施策	(1) 戦力的な観光振興による国際競争力のある観光地	事業評価			
	中施策	⑤様々な主体による静岡ブランドの構築と国内外への発信				
	産業振興 プランの 位置付け	基本方向	1 まちを「楽しむ」産業の振興		次年度 に向けた 改善点 ・ 目標の 未達成 理由等	静岡県中部地区観光協議会に3つのワーキンググループを置き、その1つとして、産業観光をテーマとしたテーマ別ツーリズムの推進体制を強化する。
基本方針		(1) 地域資源の観光活用				
基本施策		①体験型観光の振興				
担当課等	経済局商工部 観光・シティプロモーション課 観光振興担当		その他 (特記事項)			

事業 44	方針等 区分	(方針5)ものづくり産業への理解促進と情報発信 (施策11)ものづくり創造都市に関する情報発信と理解促進		平成24年度		
	事業名	経済セミナー等の開催		予算額	指定管理料 50,176千円の一部	
				決算額	指定管理料 50,176千円の一部	
	事業概要	<p>クリエイター支援センター等の本市の産業支援施設において、国内外の一流の産業人等によるセミナー、ワークショップ等を開催します。</p>		取組 状況 (9/1現在)	<p>(静岡市クリエイター支援センター)</p> <p>【セミナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> onedotzero (ワンドットゼロ) セミナーの実施 6/9 プレゼンター: Reuben Sutherland (イギリス) 6/10 プレゼンター: 横部正樹氏 (YKBX) <p>【展覧会等】</p> <ul style="list-style-type: none"> しりあがり寿の「いろいろやってるら」 ①しりあがり寿 歴史資料館 (おいおい常設かよ) ②「しりあがり寿 図書館」 swich~岡本光市 遊びのデザイン~ ・十八番 など (今後の予定) NCC Shizuoka (継続開催中) ・NCC展覧会 DOTMOV 子どもアニメワークショップ (夏休み分は終了、次回冬休み) マーケティングセミナー (産学交流センター共催) 2回 	
					補足事項	
	3月31日現在	(セミナー等開催数) 5回 55.6 (%)				
	成果目標	セミナー等開催数 9回/3年		事業 評価	<p>(静岡市クリエイター支援センター)</p> <p>【セミナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> onedotzero (ワンドットゼロ) セミナーの実施 6/9 プレゼンター: Reuben Sutherland (イギリス) 6/10 プレゼンター: 横部正樹氏 (YKBX) 子どもアニメワークショップ (夏・冬) マーケティングセミナー (産学交流センター共催) 1回 <p>【展覧会等】</p> <ul style="list-style-type: none"> しりあがり寿の「いろいろやってるら」 ①しりあがり寿 歴史資料館 (おいおい常設かよ) ②「しりあがり寿 図書館」 swich~岡本光市 遊びのデザイン~ ・十八番 NCC Shizuoka NCC展覧会 DOTMOV 子どもワークショップアニメ上映会 小学生オリキャラ祭り! CCC入居者展 	
	総合計画 の 位置付け (分野別) IV産業 ・経済	政策方針				
		大 施策				
		中 施策				
産業振興 プラン 位置付け	基本 方向		次年度 に向けた 改善点 ・ 目標の 未達成 理由等			
	基本 方針					
	基本 施策					
担当課等	経済局商工部 産業政策課 新産業担当		その他 (特記事項)	・アトサキセブンにおいて、子どもアニメワークショップで作成したアニメを上映		

事業 45	方針等 区分	(方針5)ものづくり産業への理解促進と情報発信 (施策11)ものづくり創造都市に関する情報発信と理解促進		平成24年度		
	事業名	首都圏におけるプロモーションの強化 (特産品東京展示会)		予算額	5,715 千円	
				決算額	5,616 千円	
	事業概要	首都圏において、本市の特産品展示販売及び 実演等を実施し、本市の地場産業のPRを 行います。		取 組 状 況 (9/1現在)	<p>○9月6日～11日までの6日間、東京都台東区上野2K540 (JR山手線御徒町駅～秋葉原駅間高架下商業施設)において 「静岡市伝統工芸品展」(駿河の手作り市、木と下駄と漆器と 竹と染めと蒔絵と～静岡市の伝統工芸を受け継ぐクラフトマン たち)と銘打ち、静岡市伝統工芸技術士の作品展示と、その 技術を受け継ぐ若手職人の作品展示・販売会を開催する予定。 今年は例年実施していた展示会場が移転したため、新たに会場 を模索して、展示会の開催となった。</p> <p>○10月17日～19日までの3日間、東京新宿駅西口広場イベントコ ーナーにおいて、「静岡市の特産品 東京展示会」開催し、工 芸品、お茶などの加工食品、水産加工品等の販売を予定してい る。今年は例年出展している、家具、駿河漆器、駿河指物等の 工芸品だけでなく、『ホビーのまち静岡』のPRを推進するため プラモデルの展示も企画している。その他、静岡市ブランド認 証「しずおか葵プレミアム」に認証された商品の展示と販売も 予定している。</p>	
					補 足 事 項	
	3月31日 現在	(実施回数)2回 33.3 (%)				
	成果目標	6回/3年 地場産品のPR及び静岡市ブランドの 創出・認知度の強化		事 業 結 果	<p>○9月6日～11日までの6日間、東京都台東区上野2K540 (JR山手線御徒町駅～秋葉原駅間高架下商業施設)において 「静岡市伝統工芸品展」(駿河の手作り市、木と下駄と漆器と 竹と染めと蒔絵と～静岡市の伝統工芸を受け継ぐクラフトマン たち)と銘打ち、静岡市伝統工芸技術士の作品展示と、その 技術を受け継ぐ若手職人の作品展示・販売会を開催した。また 竹子筋細工のワークショップも開催し、体験者の好評を得た。 ★期間中の来場者数 約6,000人 ★期間中の売上額 約630千円</p> <p>○10月17日～19日までの3日間、東京新宿駅西口広場イベントコ ーナーにおいて、「静岡市の特産品 東京展示会」開催し、工 芸品、お茶などの加工食品、水産加工品等の販売を行った。今 年は例年出展している、家具、駿河漆器、駿河指物等の工芸品 だけでなく、『ホビーのまち静岡』のPRを推進するため、プラ モデルの展示も企画実施した。その他、静岡市ブランド認証「 しずおか葵プレミアム」に認証された商品の展示と販売も実施 した。 ★期間中の来場者数 約12,000人 ★期間中の売上額 約5,083千円</p>	
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策 方針			事 業 評 価 等	(事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項
		大 施 策				
		中 施 策				
産業振興 のプラン 位置付け	基本 方向	2 生活の質を高める産業の振興	事 業 評 価 等	(事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項	・ その場での販売に結び付き難い商品もあるが、情報発信の場として、 今後有効活用していければよい。 ・ 「静岡市＝ものづくりの市」というブランドを確立できるようなPR を行ってほしい。	
	基本 方針	(1)マーケットを重視した事業展開 の促進				
	基本 施策	③販路開拓支援				
所属部会	■販路開拓部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 地場産業担当		事 業 評 価 等	(事業担当 記載事項) 改善点 ・ 目標の 未達成 理由等	静岡市の地場産品を日本の首都東京で展示販売するという初期の目的 は、前年並みの成果を挙げたことで達成できたと考えられる。また、今 年度についてはプラモデル業界の協力も得て展示が出来たことは良かった。 一部に販売を望む意見があり次回に実施できるかは、業界の意気込 みによる。葵プレミアムの出展も年々増加傾向にあるので、会場小間の 割り振りに問題が生じる不安がある。	
事業 担当課等	経済局商工部 地域産業課 地場産業担当					

事業 46	方針等 区分	(方針5)ものづくり産業への理解促進と情報発信 (施策11)ものづくり創造都市に関する情報発信と理解促進		平成24年度		
	事業名	首都圏におけるプロモーションの強化 (ホビーのまち)		予算額	0千円	
				決算額	0千円	
	事業概要	「ホビーのまち静岡」を首都圏等に向け発信することにより、静岡市のブランド力を高め、更なる購買層の拡大と業界振興につなげます。		取 組 状 況	現 況 (9/1現在)	「静岡市の特産品東京展示会」に「模型の世界首都しずおかプラモデル展」を同時開催の予定で、委託先の静岡特産工業協会と展示方法等について打ち合わせを行い、また静岡模型教材協同組合に協力の確約を得た。
	3月31日 現在	(実施回数) 1回 33.3 (%)				
	成果目標	PR事業の強化 3回/3年		事 業 結 果	○10月17日(水)～19日(金)の3日間に、東京新宿駅西口広場イベントコーナーにて開催した、「静岡市の特産品東京展示会」に併せて「模型の世界首都しずおかプラモデル展」を開催した。静岡模型教材協同組合の協力の下、加盟する模型メーカー3社からプラモデルを借り入れショーケースで展示を行うとともに、静岡ホビースクエア企画展のチラシを配布した。また、会場内で静岡ホビーショー及びクリスマスフェスタのビデオを上映し「ホビーのまち静岡」をPRした。	
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策 方針	○会場アンケート結果(有効回答数600件) ・静岡市が「ホビーのまち静岡」として情報発信していること ①知っている191人 ②知らない389人 ③無回答20人 ・プラモデル展示について ①もっとたくさん見たい487人 ②興味がない80人 ③その他無回答33人			
		大 施 策				
	中 施 策					
産業振興 のプラン 位置付け	基本 方向	2 生活の質を高める産業の振興	事 業 評 価 等	(事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項	東京展示会におけるプラモデル展示コーナーに、もっと立ち寄り人が増えるようにプレゼンテーションの方法に工夫が必要。	
	基本 方針	(1)マーケットを重視した事業展開 の促進				
	基本 施策	③販路開拓支援				
所属部会	■販路開拓部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 地場産業担当		事 業 担 当 記 載 事 項	改善点 ・ 目標の 未達成 理由等	展示スペースとの兼ね合いを回りながら、展示する模型の質や量及び会場で配布するパンフレットの充実と模型の販売について、静岡模型協同組合と検討して行く。	
事業 担当課等	経済局商工部 地域産業課 工業支援担当					

事業 47	方針等 区分	(方針5)ものづくり産業への理解促進と情報発信 (施策11)ものづくり創造都市に関する情報発信と理解促進		平成24年度			
	事業名	静岡市ブランド認証制度の拡充		予算額	5,546 千円		
				決算額	4,300 千円		
	事業概要	本市ならではの魅力ある商品や製品を静岡市ブランドとして認証し、広くPRすることで、本市の認知度を高めシティプロモーションの推進を図ります。また、これを機に新たな商品や製品の開発を促進するなどの拡充に取り組みます。		取 組 状 況 (9/1現在)	◆新規認証関係 9月1日現在、認証申請の受付期間中であるため、今後の予定を記載 ①認証申請期間 8月1日～9月28日 ②書類審査 10月31日(ブランド認証専門委員会開催) ③プレゼン審査 11月26～27日(ブランド認証専門委員会開催) ④申請見込件数 15件 ◆展示販売会関係(今年度は5会場予定) ・駿府楽市「しずおか葵プレミアム展」 5月31日～6月6日 ・エスパルスドリームプラザ展示販売会 7月27～29日		
					補 足 事 項	進 捗 率	9月1日 現在
	3月31日 現在	(認証品数) 10回 (展示即売会数) 5回	50.0 33.3 (%)				
	成果目標	平成24～25年度 20品認証 展示即売会 15回/3年に拡充		事 業 評 価 等	◆新規認証関係 ①認証申請期間 8月1日～9月28日 ②書類審査 10月31日(ブランド認証専門委員会開催) ③プレゼン審査 11月26～27日(ブランド認証専門委員会開催) ④申請件数 33件 ⑤新規認証件数 10件 ◆展示販売会関係 ・駿府楽市「しずおか葵プレミアム展」 5月31日～6月6日 ・エスパルスドリームプラザ展示販売会 7月27～29日 ・静岡市の特産品 東京展示会「しずおか葵プレミアム展」 10月17～19日 ・鞠子楽市「しずおか葵プレミアム展」1月24日～2月5日 ・足柄サービスイリア「しずおか葵プレミアム展」3月中旬		
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策 方針	IV産業・経済 1 都市型産業集積を目指した産業構造 の知的高度化		事 業 結 果		
		大 施 策	(2)地域産業の活力強化				
		中 施 策	②地域資源を活用したブランドの構築・ 強化				
産業振興 のブラン 位置付け	基本 方向	1 まちを「楽しむ」産業の振興	事 業 評 価 等	◆一般審査員(これは静岡のものだねがわかる程度)をもっと増やし投票してもらったらどうか。 ◆他薦による商品を探しメーカーにコンタクトしたらどうか。 ◆「静岡市ブランド」とは、何が静岡市らしいものなのでしょうか			
	基本 方針	(2)全国・海外への積極的なプロモーション展開					
	基本 施策	①市民が誇れる静岡ブランドの確立					
所属部会	■伝統工芸創造部会 部会員 ものづくり審議会委員5人 ■事務担当 地場産業担当		事 業 評 価 等	◆静岡市ブランドの認知度がまだ低いので、従来のPR方法だけでなく、多様な機会を活用して、より効果的な情報発信が必要である。 ◆認証品の展示場所や展示方法、販売方法などについて静岡市ブランドがもっと評価されるプロモーションが必要である。			
事業 担当課等	経済局商工部 地域産業課 地場産業担当			◆認証品数も増えて、各認証品の顧客ターゲット、流通形態、事業者の販売方針にも多様性があることから、情報発信や展示会への出品等も個々の認証品にあった、きめ細やかな対応が必要である。			

事業 48	方針等 区分	(方針5)ものづくり産業への理解促進と情報発信 (施策11)ものづくり創造都市に関する情報発信と理解促進		平成24年度			
	事業名	市民向けものづくり体験・学習イベント の開催		予算額	5,970千円		
				決算額	5,654千円		
	事業概要	市内ものづくり事業者等の協力のもと、広く 市民に向けて市内のものづくり産業に関する 学習機会として、体験型等のイベントを開催し ます。		取 組 状 況 現 況 (9/1現在)	市内の小学校4年生が社会科事業の一環として「駿府匠宿」 で創作体験する場合申請により、その利用に要する費用の一 部を市が支援している。 補助金額は児童一人最大1,500円、現在51校の申請があ り、10月以降実施予定。		
					補 足 事 項	進 捗 率	9月1日 現在
	3月31日 現在	(参加者数)134人(校)	44.7(%)				
	成果目標	参加者 300人/3年		事業結果	<p>■平成24年度地品体験学習事業実績</p> <p>参加学校数：51校、参加児童数：3,836人 例年通り、小学校の授業を通して、市民にもものづくりに対 する関心と理解を深めることができたと考えられる。</p> <p>■さらなる市民向けものづくり体験の機会としては、</p> <p>○静岡工芸青空市（主催：財団法人静岡産業振興協会） 本市伝統工芸品の物販会場において、ワークショップ形 式で簡易な座椅子製作を実施。木材加工を通じて、もの づくりに親しむ場を提供した。（参加者数）2人</p> <p>○産業フェアしずおか2012で駿府匠宿がサドブラスト等の 体験コーナーを実施した（参加者数）81人 市内ものづくり事業者協力のもと、市民向けものづくり 体験型のイベントが開催された。（合計83人）</p>		
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策方針			事業 評 価 等 (事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項		
		大施策					
		中施策					
産業振興 のプラン 位置付け	基本方向		事業 評 価 等 (事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項	<p>■地場産品体験学習事業の継続</p> <p>本事業では、市内小学校全90校の約56%の学校が申請 し、市内の小学4年生全5,988人(24.5.1現在静岡市 教育委員会調べ)のうち、約64%の児童が地場産品のも のづくりを体験したことになった。また、実施した学校から 寄せられた学習成果や感想で、普段接する機会のない職人 さんの話や技の見学、実際の竹ひご作りを体験させてくれ ることも好評であることから、市民へ広く地場産業の振興 ・PRを図るため、さらなる事業の継続が求められる。</p> <p>■その他の市民向けものづくり体験イベントの開催</p>			
	基本方針						
	基本施策						
所属部会	<p>■PR促進部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 産業経営担当</p>		事業担当 記載事項	<p>◆体験学習事業 市内小学校への周知に努め、来年度以降も引き続いて、地場産品に関 する理解を促進させるように、市内小学校への周知に努めていきます。</p>			
事業 担当課等	<p>経済局商工部 地域産業課 地場産業担当</p>			改善点 ・ 目標の 未達成 理由等	<p>◆市民向けものづくり体験機会 民間を中心に実施される事業については、活動実績を広報紙に掲載する ほか、事業の後援にも積極的に取り組み、地域で繰り広げられる活動の支 援に努めていきます。</p>		

事業 49	方針等 区分	(方針5)ものづくり産業への理解促進と情報発信 (施策11)ものづくり創造都市に関する情報発信と理解促進		平成24年度			
	事業名	ものづくり現場企業見学会の開催		予算額	0千円		
				決算額	0千円		
	事業概要	市内ものづくり事業者等の協力のもと、市民が市内におけるものづくり現場を見学する機会を通じて、ものづくり産業への理解促進に取り組めます。		取組 状況 現況 (9/1現在)	<ul style="list-style-type: none"> ●情報収集、整理 市内のものづくり現場見学をツールとした既存事業（観光及び雇用）の実施状況（内容、経緯、結果、今後の方向性）を把握する。 <方法> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎資料収集（ホームページ、書籍、等） ・関連事業の実施団体へのヒアリング ・工場見学会等への参加 日本軽金属株式会社（蒲原製造所） 日立アプライアンス株式会社（清水事業所） 株式会社巴川製紙所（静岡事業所） 		
					補足事項	進捗率	9月1日現在 (参加者数)
		3月31日現在 (参加者数)	0 (%)				
	成果目標	参加者 300人/3年		事業 結果	<ul style="list-style-type: none"> ●既存事業の情報収集、整理 市内のものづくり現場見学をツールとした既存事業（観光及び雇用）の実施状況（内容、経緯、結果、今後の方向性等）を把握する。 ●関連事業の情報収集、整理 市内の他目的も含めた企業との連携事業の情報を収集し、PR促進につながる事業の実施状況（内容、経緯、効果、今後の方向性等）を整理する。 		
	総合計画 の 位置付け (分野別)	政策方針			事業 評価 等 (事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項		
		大施策					
		中施策					
産業振興 のプラン 位置付け	基本方向		事業 評価 等 (事務担当 記載項目) 所属部会 からの 意見及び 指摘事項	<ul style="list-style-type: none"> ■ものづくり現場企業見学会における協力企業の対象 中小企業や個人事業者においては、「企業見学会」という手法では対応することが難しい側面がある。ビデオの作成など他の手法についても検討し、多くの方に見てもらえるようにすることも必要ではないか。 			
	基本方針						
	基本施策						
所属部会	<ul style="list-style-type: none"> ■PR促進部会 部会員 ものづくり審議会委員3人 ■事務担当 産業経営担当 		(事業担当 記載事項) 改善点 ・ 目標の 未達成 理由等	<ul style="list-style-type: none"> ◆既存類似事業を参考にしながら、市の役割を明確にし、①事業スキーム作成、②対象者、協力企業の抽出の順に、実施に向け取り組んでまいります。その際に、伝統工芸などの個人事業者が協力しやすい方法の検討や、他のPR手法での補完の検討についても進めていきます。 			
事業 担当課等	経済局商工部 地域産業課 産業経営担当						